

Bulletin

交通 ● ブリテン

ISSN 1349-9610

2022年
年報号

58

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION SYSTEMS ENGINEERING • COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY • NIHON UNIVERSITY

巻頭言：谷口 望

世の中のシステムが激変した時代こそ、
物事の本質を見極めよう

Contents

- 2 巻頭言：谷口 望
- 3 令和4年度 研究室紹介
- 6 TOPICS 新任教員の紹介
- 7 TOPICS 交通システム工学科配置図
- 8 令和3年度 修士論文・卒業研究
- 12 令和3年度 教員の研究・活動
(2021.4.1~2022.3.31)
- 29 令和3年度 学生の受賞等
(2021.4.1~2022.3.31)
- 30 教室の動き
- 35 令和3年度 就職状況
- 36 COLUMN
- 36 編集後記

表紙写真は、交通システム工学科写真コンテストの写真です。
撮影者：齊藤真那恵さん



巻頭言 世の中のシステムが激変した時代こそ、物事の本質を見極めよう

教授 谷口 望

コロナ禍と言われる、今までに経験のない世の中をいかにお過ごしでしょうか。コロナ禍になって2年が経過し、皆様も十分に感じられていることかと思いますが、今までの社会システムが激変しています。

大学の研究者としての活動では、研究者間での打ち合わせの多くがZoom等の遠隔通信での打ち合わせに変わりました。今までには研究者同士、東京や大阪の大都市圏に直面して集まって、会議として研究活動や情報交換を進めていたのですが、最近では日時だけ調整し、自身の大学の居室や自宅から遠隔通信での打ち合わせがほとんどです。この状況は、大都市圏以外の地方の大学の研究者に大きな影響があると言えます。これまでは、大学の研究者の研究リソースや情報量は、大都市圏の大学研究者に集中し、それ以外の地方大学ではかなり厳しい状況と言われていました。つまり、地方の大学では大都市圏への出張旅費や移動時間を考慮すると明らかにその点で不利となり、日本の先端の研究者として活動するのが難しいと言われていました。しかしコロナ禍になった現状では、地域による差異は完全になくなったように見えます。遠隔通信での会議が主体の進め方では、大都市であっても地方であっても、まったく同じ条件で会議や研究に参加できる状態になっています。われわれの日本大学理工学部は、どちらかと言うと首都圏にある大学という認識になります。これまでは、大都市圏に近い大学として学協会に参加しやすく、先端技術に直接触れる機会が多かったのですが、このメリットが失われた現在は、今後は交通システムの研究者として、個人の能力の真価が問われる時代になっていると思われまます。

一方、大学の教育についてもかなり激変したと言えます。この点でも、遠隔通信による教育が中心になっている影響が絶大です。出欠確認はインターネット経由での登録になり、授業も遠隔通信でパソコンの画面を見て学習するというのが主流になっています。教員も学生も、その対応には苦勞の連続であったかと思いますが、このような状態が2年経過し、お互いに要領を得てきているのではないのでしょうか。要領を得てスムーズに物事が進むようになったことは良いことのように思えますが、かなりのデメリットもあると考えます。学生からの視点でお話ししますと、遠隔授業が始まったばかりの時には「授業がどうなるかわからない」、つまり「遠隔通信でいつ個別に指名されるかわからない」「成績評価法がどのようになるかわからない」ということから、遠隔通信でもしっかりと授業を受けていたように思えます。しかしながら、時間が経過して慣れてくるとともに「出席登録は授業の最初にすれば後は授業に参加していなくても良いのでは」「先生は学生全員をチェックできないから授業中は遠隔通信をつなげておけば、自宅で寝ていようがTVを見ようが自由にできる」、さらには「遠隔通信ではこれまでの定期試験と同じような監督はされ

ず、教科書を見たり友人と相談しながら答案を作ったりすることができる」ということが、徐々に理解され浸透してきている状況かと思えます。これは、授業を理解する努力をしなくても、うまくやれば単位を取得することができ、高いGPAを獲得することができるなど好成績を取めることができってしまうことを意味しています。このようなことは、現状の遠隔通信を使用した授業では改善の余地がある事項ではありますが、なかなか現実的に対応が難しい点でもあります。しかし、私としては、大学で学習をするということの本質を考えたいと思います。大学での学習は、将来自分が技術者として活躍するために必要な内容を習得することが目的であったはずで、決して、大学教員に学習を強要され、仕方なく単位修得や卒業のために授業参加や試験を受けさせられるというものではないはずで、われわれ教員は、学生に教育の機会を与え、学生が将来必要となるであろう知識を得るサポートを中心と考えています。科目の必修・選択についても、本分野の技術者として必要不可欠であるから必修となっているわけではありません。

学生自身も、大学には何のために入学・通学しているのかを、あらためて考え直す時代になっているのではないのでしょうか。遠隔での授業を通じて、本来の身につく学習をすることなく単位を形式的に修得して卒業することが可能になっているとしても、せっかくの学習の機会を失うことは非常にもったいないことであると思います。また、大学での学習が身につかない状態で就職した場合、将来大きな後悔をするとも思います。さらに他の大学でも同じ課題があると聞いており、これまで優秀とされていた大学であっても、身につく学習をしていない学生が生じているようです。つまり、これまでの、就職先まで学校の偏差値等で暗黙のヒエラルキーで出来上がっていた世の中は、大きく変わることが予想されます。よって、就職活動においては、日本大学理工学部では到底かなわないと言われる大学出身者より上回る可能性もありますが、逆に、これまで先達が確立してきたブランドや立場を失う可能性も大いにあります。就職先の採用担当者も、出身大学名ではなく個人の能力を見極めることを、今まで以上に重視するようになるでしょう。

コロナ禍以前と違って、大学を取り巻く環境は大きく変わり、逆戻りできない変化になっています。団塊世代、氷河期世代、ゆとり・さとり世代などと同じように、今の時代を過ごした学生は「コロナ世代」と言われることになるかもしれません。このような時こそ物事の本質を見極め、新しい社会に向けて、何に積極的に取り組み何を時代に合わないとして取りやめていくか、教員、学生ともに自身の考えでの取捨選択が要求されています。

令和4年度 研究室紹介

744号室

運輸交通計画 研究室

轟 朝幸 教授
兵頭 知 助教



当研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージ」することを目標として研究を進めています。

キーワードは「交通まちづくり」「インターモーダルリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。'まち'は空間的広がりを意味し、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモーダルリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶などの陸海空のあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモーダルリズムの確立を目指し、交通まちづくりを実践するための理念、

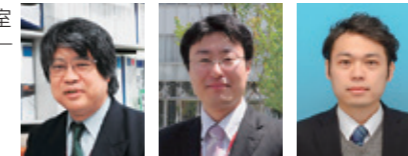


秋田県で導入を進めている自動運転車両 リモートによる研究室懇話会

739号室

交通システム 研究室

福田 敦 教授
石坂哲宏 准教授
菊池浩紀 助手



交通システム研究室では、さまざまな交通問題に対してシステム工学的アプローチから取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価に適用し、実際に問題解決に貢献することを目標としています。例えば、BRT、地下鉄、新幹線などの軌道系交通機関の導入、公共交通軸を中心としたコンパクトな都市形態の実現、都市災害に対する適応策の導入などがCO₂排出量の削減や経済効果の増加にどの程度寄与するか検証しています。また、車両に搭載されているプローブ情報システムやカーナビなどから移動体情報を取得することで交通状態を推計する手法の開発を行っています。これらのデータに基づいてマイクロ交通流シミュレーションモデルを開発し



バンコク都市内における歩行環境調査の様子

ており、例えば、交通情報を提供することでマルチモーダルを推進する方法など、さまざまな施策の評価に適用しています。これらのモデルやシステムの開発は、各国の大

政策、理論、技法などについてフィールド調査や交通分析などを実施しながら研究を進めます。加えて、道路上に起こりうるさまざまな交通問題 (i.e. 事故や渋滞) についての研究も併せて行っています。

●卒業研究テーマ

- ・UAMの社会受容性に関する研究
- ・PMVの利用に関する研究
- ・公共交通（航空、鉄道、バスなど）の交通行動分析
- ・マーケティング施策による公共交通活性化分析
- ・地方ローカル線(いすみ鉄道等)を活かした地域交通計画
- ・事故リスクの要因分析に関する研究
- ・自動運転車両の公共交通への導入検討
- ・夜間光データを用いた貨物量の推計に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ・地方創生政策アイデアコンテストに応募
- ・交通計画分野に関する文献レビュー（英論文含む）
- ・就活に向けた実力アップ（SPI、TOEICなど試験対策）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

原則として「交通需要予測」「空港・港湾工学」「交通事業論」「地域計画」を履修すること。TOP資格を取得。

これまでの卒論・修論の概要やゼミ旅行などのイベント、学会発表参加などの研究室活動実績はホームページを参照してください。(pubtrplan.trpt.cst.nihon-u.ac.jp)

学あるいは政府関係機関などと共同研究という形で進めています。近年では、タイのカセサート大学、スラナリー工科大学、インドのインド工科大学ハイデラバード校、フィリピンのデ・ラサール大学、ザビエル大学、オーストリアのウィーン工科大学などと共同で研究を進めています。また、卒研生や大学院生が現地の学生と協力して、オンラインでの研究ミーティングの実施や調査なども行っています。

●卒業研究テーマ（一部）

- ・都市鉄道事業における運営方法の分析
- ・都市鉄道駅周辺における歩行環境の評価
- ・15-minute cityの概念に基づいた都市集約化の効果の分析
- ・都市洪水発生時の適応策の評価
- ・鉄道端末交通としての自動運転バスに関する利用意向の把握
- ・深層学習と交通ビッグデータによる交通状態推定
- ・短期将来交通予測に基づく交通マネジメント施策の評価

●ゼミナール・テーマ

小グループごとに対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、それを解決するための計画案を作る。計画案作りの過程や現地調査を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・シミュレーションモデルを活用した計画案の分析方法を学習する。グループワークでは、交通問題の解決に向けた議論を行い、発表及び講評会を行う。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題の解決にかかわる職業に就くことを希望している者。交通需要予測、国際コミュニケーション論、国際開発援助論、多変量解析、情報通信システムの受講を推奨する。

交通環境 研究室

藤井敬宏 教授
伊東英幸 教授



交通環境研究室では、公共交通や福祉交通、観光交通などの利便性向上に向けた改善策の検討や、環境に配慮した交通インフラ整備の計画や評価、ならびに交通環境の改善に向けた対策などの研究を進めています。

例えば、公共・福祉・観光交通の視点では、コンパクトシティにおける交通ネットワークの整備検討、住民協働型の公共交通整備方策の検討、中山間地域における自動運転や住民互助による移動交通手段の検討、心のバリアフリーに関する検討を行っています。またエゾシカやヤンバルクイナなどの野生生物と自動車の事故発生要因の分析と対策の検討、リニア中央新幹線の環境アセスメントの評価などに取り組んでいます。

令和3年度のゼミナールは、大学院生1名、卒研生17名、3年ゼミ生16名の総勢34名が在籍し、Zoomを用いたオンデマンドとリアルタイムによるゼミナールや卒業研究中間発表会を年2回実施しました。

●卒業研究テーマ（一部）

- ・ウーブン・シティと連携した自動運転車導入による地域まちづくりの検討
- ・移動観測法を活用した時空間暴露量による歩行空間評価の検証

- ・コミュニティバスの路線再編による本格運行に向けた運行評価
- ・子育て世帯を対象としたデマンド型交通の活用効果について
- ・中山間地域における住民主体による送迎システムの導入可能性の検討
- ・北海道におけるエゾシカと車両の事故発生要因の分析
- ・アマミノクロウサギのロードキル発生による社会的費用の推計
- ・山梨県におけるリニア中央新幹線の環境影響評価に係る住民の意識分析

●ゼミナール・テーマ（令和3年度実施内容）

- ① 課題発表
 - ・わが国の高齢化社会に対応した自治体の交通システムの取り組み事例に関する課題発表
- ② 社会貢献型学習（自治体との協働によるグループディスカッション）
 - ・市原市市民大学講座（シニアのための交通支援）に参加
 - ・横芝光町のデマンドタクシーの認知度向上、利用促進に向けたパンフレットの作成
 - ・成田市の市内循環バスの導入に向けた検討
 - ・柏市の交通空白地域対策の検討
- ③ 就職&進路指導
 - ・インターンシップに向けた就職&進路セミナー

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通環境問題に関心を持ち、ワークショップやフィールド調査に積極的に参加する意欲があること。

15名の総勢44名が在籍し活動をしました。

●卒業研究テーマ（令和3年度）

- ① GNSS測位による自動パーレーパーキングでの車両誘導
- ② QZSSのセンチメートル級測位補強サービスの研究
- ③ 都市部移動体測位におけるVRS方式の信頼性評価
- ④ MMSの各レーザ計測方式による滑走路面形状計測
- ⑤ MMSによる鉄道レール形状の計測精度比較
- ⑥ 高齢者疑似体験装具とVRによるサイン発見率の実験
- ⑦ VRを用いた車椅子利用者視点における床サイン評価
- ⑧ UAVを用いたフォトグラメトリによる段差抽出
- ⑨ 撮影時の照度がSiMの点群モデルの精度へ与える影響
- ⑩ LCD式車内案内表示装置の表示内容に関する研究

●ゼミナール・テーマ

GNSS、レーザ測定の仕組みについて専門書の輪講・計測体験を行います。また、交通調査や交通バリアフリーに関する見学体験会ならびに論文の講読を行い、専門的知識を高めます。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特にありません。新技術や社会貢献に興味のある方を歓迎します。卒研、ゼミ受入可能コース：両教員ともに両コース受入可能

空間情報 研究室

佐田達典 教授
江守 央 准教授



空間情報研究室では、衛星測位システム（GNSS）、レーザ計測技術をベースに、先端的なセンサを利用して位置や形状を計測・解析・可視化する研究を行い、3次元地図整備、交通施設整備、移動時の情報提供への応用を目指しています。

GNSSは米国のGPS、わが国の準天頂衛星QZSSをはじめ世界各国のシステムを用いた高精度測位実験による評価を行っています。車両にGNSSとレーザ計測装置を搭載して道路空間の形状を走行しながら計測するモバイルマッピングシステム（MMS）を用いて自動走行のための3次元道路情報や歩行の移動円滑化に向けた歩道のバリア情報の抽出や情報提供などの応用技術を研究しています。バーチャルリアリティ（VR）技術によるバリアチェックにも取り組んでいます。

令和3年度は、大学院生12名、卒研生17名、ゼミナール生



UAVによる計測実験



VRと車椅子による実験



MMSの構成

交通計画 研究室

小早川 悟 教授
田部井優也 助手



交通計画研究室では、「地区交通計画」と「都市交通管理」を柱として研究を行っています。具体的には、自動車のトリップエンドとしての駐車をどのようにコントロールしていくか、都市における物流や貨物車の問題をどのように解決していくか、自転車や二輪車の利用や走行に関する研究、交通安全対策に関する研究、災害発生を考慮した都市交通計画の検討などを進めています。さらに、ゼミ合宿、卒業研究中間発表会、研究室懇親会では、研究室の卒業生の先輩方にも参加していただき、研究内容や就職活動に関するさまざまな意見交換を行っています。

●卒業研究テーマ

- ① 駐車施設の運用に関する研究

これまでのような普通乗用車用の駐車スペースの供給量を増やすことを主眼においた駐車政策から、既存の駐車スペースを有効活用するための駐車場の隔地・集約化に関する研究や、貨物自動車や自動二輪車用の駐車スペースを確保するための研究に取り組んでいます。また、駐車場の出入口の安全性に関する研究も行っています。
- ② 物流システムに関する研究

物流効率化のための施策として建物内共同配送に関す

る研究や、貨物車対策のためにビッグデータを活用し貨物車の動きを把握する研究を行っています。

- ③ 交通安全に関する研究

道路形状からみた交通事故対策の考え方や生活道路における交通安全対策に関する研究を行っています。さらに、無信号横断歩道における車両のゆずりを促進させる社会実験にも取り組んでいます。
- ④ 自転車交通に関する研究

自転車通行空間整備のための自転車通行実態調査を実施することで、どのような形態の道路空間整備が自転車や歩行者さらには自動車にとって望ましいかを道路種別や交差点形態別に分析を行っています。
- ⑤ 災害時を考慮した都市交通計画に関する研究

災害時における支援助物資輸送のための道路交通計画に関する研究や東日本大震災時の交通信号機の被害状況を調査し早期復旧のための資機材のストック方法の検討を行っています。

●ゼミナール・テーマ

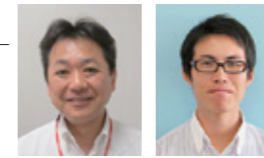
- ・『交通技術必携』の輪読および発表
- ・「これからの交通工学」や「研究活動の進め方」等の講義
- ・交通対策の現場見学会
- ・交通行動データ解析の基礎演習
- ・セミナー、シンポジウム、講習会等の参加

●卒業研究、ゼミナール着手条件

ロジスティクス概論・交通現象解析Ⅱを受講すること。

道路マネジメント 研究室

下川澄雄 教授
吉岡慶祐 助教



人口減少、少子高齢化社会が直面するなかで、今後ともくらし豊かな生活、効率的な都市機能を維持していくためには、中山間地域から大都市に至るまで、「コンパクト」+「ネットワーク」により、新たな活力の集積を図り、それらが重層的に重なる国土の形成を図る必要があります。

道路マネジメント研究室は、これらを実現すべく、道路を中心とする交通インフラの計画・設計から維持管理に至るプロセスの中で、今日的な課題や社会的な要請を抽出・整理し、新たな制度設計を提案していくことを研究の柱としています。そのため、研究の対象は、①道路ネットワークのあり方、②道路のサービス水準と道路の新たな計画設計論、③車両性能や交通特性と道路の構造との関わりなど、道路の機能・特性に関わる基礎的な研究から施策立案に関する実務的な応用研究といった広い領域を含むものです。

なお、本研究室では、他大学との合同ゼミ合宿をはじめとして外部との交流も盛んに行っています。

●卒業研究テーマ

- ・道路の機能・階層を踏まえたサービス水準のあり方に関する研究
- ・将来の拠点配置や交通特性を踏まえた道路ネットワークや道路空間の再編に関する研究

- ・高速道路渋滞時の交通挙動と交通運用策に関する研究
- ・信号交差点での交通挙動と交通状態量に関する研究
- ・ラウンドアバウトの交通特性と道路構造に関する研究
- ・性能照査型の道路計画設計論など

●ゼミナール・テーマ

小グループごとによるフィールドスタディを通じ、道路交通問題とその解決策を実践的に習得することを狙いとしています。また、グループディスカッションを通じ、思考力や論理的説明能力の向上を目指します。令和3年度は、浜名湖周辺を対象フィールドとして、老朽化が問題となっている跨線橋が撤去された際の周辺への交通の影響を、ビデオ調査や交通容量の解析に基づいて予測し、改善策を議論しました。また、その成果をレポートとしてまとめました。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

道路工学、交通現象解析Ⅱを履修または履修予定であること。



他大学との合同ゼミ合宿



空撮調査による走行挙動分析

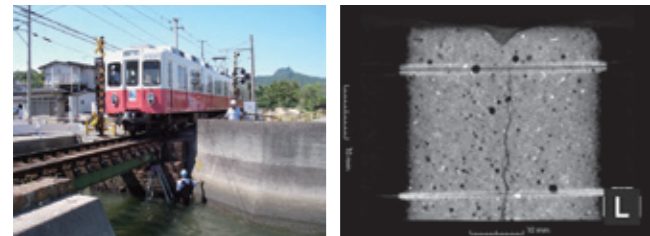
鉄道構造 研究室

谷口 望 教授
齊藤 準平 准教授
関口 穂 助手



当研究室では、公共交通を支えるために重要となる交通基盤（鉄道構造物や道路構造物）を研究対象として、構造工学は基より、材料工学や維持管理工学などの視点から研究を行っています。交通基盤の新たな建設、膨大な数の交通基盤の機能維持など、交通基盤を取り巻く諸問題は多く、その解決を目指したテーマを設定し研究に取り組んでいます。

研究活動では、積極的に成果を公表することとし、学協会の発表会やシンポジウムに投稿します。ゼミナール活動では、学生向け橋梁コンペティションへの参加のための製作、コンクリートカヌー大会に出場するためのカヌー作製などを通じて、モノづくりの楽しさや生きた勉強を経験します。



高松琴平電鉄の橋梁での構造実験

コンクリート内部のひび割れ(3次元X線CT画像)

●卒業研究テーマ（令和3年度実施内容）

谷口教授

- ・老朽化した鉄道用鋼橋に関する性能評価
- ・i-constructionに適合した構造物の設計手法の開発
- ・リベット接合を用いた鉄道橋の耐荷力特性に関する研究
- ・鉄道SRC桁の合理的設計法に関する研究

齊藤准教授

- ・圧縮応力の付与状態や付与期間の違いがコンクリートの塩分浸透抵抗性に及ぼす影響
- ・圧縮応力付与によるコンクリートの内部空隙構造の変化の解明
- ・3次元X線CTと毛細血管造影剤の含侵によるひび割れの検出
- ・効率的な道路橋点検を目指した健全性診断結果と環境・気象条件との関係分析

●ゼミナール・テーマ

- ・ジャパンスチールブリッジコンペティション (JSBC) 用の橋梁の設計、製作 (谷口)
- ・コンクリート・モルタルを用いたカヌーの作製「コンクリートカヌー大会に出場！」(齊藤)
- ・自由研究、課外活動 (現場見学会、工場見学会、施工体験会など)

●卒業研究、ゼミナール着手条件

材料・構造に関する科目（建設材料、コンクリート構造、鋼・コンクリート実験、構造力学Ⅱ）を履修（同時履修可）。

TOPICS 新任教員の紹介



関口 穂 助手

この度、日本大学理工学部交通システム工学科の助手に着任させていただくことになりました、関口穂です。私は、前

橋工科大学工学部を卒業後、建設コンサルタント会社に入社し、4年間の業務経験を経て、4月より本学科にてお世話になることとなりました。

前職では鉄道構造物（駅改良・橋梁）の設計業務を担当していましたので、そこでの経験をご紹介させていただきます。

構造物、構造物を構成する部材にはさまざまな荷重が作用します。例えば、部材自体の重量、建築構造物（屋根や床）の重量、上に乗る電車や人の重量、風や地震による慣性力などです。構造物の設計時にはこれらを適切に作用させて、構造物が安全であることを確認する必要があります。どんなサイズの部材にするかを定めるためにこれらの荷重を用いて設計計算をしていきますが、ベースになるのは、学生時代に学んだ、

構造力学、材料工学（コンクリート・鋼）であり、その大切さを強く感じました。

また、既設構造物の形状や位置関係を明確にすることも重要です。既設構造物は財産図（建設当初の設計図面）で大まかには確認ができますが、実際にその通りに施工されているか、その後、付帯設備等が後施工されていないかなどは、実際に現地を見てみないと確認はできません。時には実際に現地に赴き、現地の状況を調査しながら新設構造物の形状や制約条件を決定していききました。

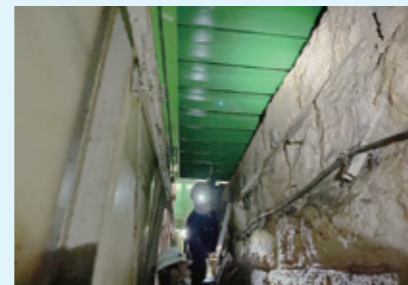
設計業務はトライ＆エラーの積み重ねです。「現地に即しているか」、「施工できる



JR 渋谷駅工事の様子

か」、「設計計算は正しいのか」をさまざまな関係者との協議の中で確認しながら、設計図面を完成させていきました。その分、工事が無事に完了し、実際に完成した構造物を見たときはとても感動しました。

4月からはこれまでの経験を生かして、構造力学、鋼・複合構造の分野でより実践的な研究を目指していきたいと思っております。まだまだ未熟ではございますが、本学科の皆さまのお役に少しでも立てるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



橋梁下での現地調査の様子

地盤工学 研究室

峯岸 邦夫 教授
山中 光一 助教



研究室構成は、大学院博士後期課程1名、前期課程1名、卒研生14名、ゼミナール生12名の合計28名で、教員は峯岸教授、山中助教の2名体制で研究・教育を進めました。

当研究室では、交通施設（鉄道、道路、空港、港湾など）に関連する施設）の設計・建設に関わる地盤の力学的問題や新材料・新技術の開発、地盤構造物の維持管理に関わる諸問題について研究を行っています。

卒業研究では、継続研究の舗装用に強化されたジオテキスタイル（土木用不織布）の耐久性および通水性能、ジオシンセティックスを立体的に組み立てて地盤内に敷設をするジオセルの力学特性の把握ほかに、補強盛土工法の維持管理に関する研究等を行いました。これらの成果は、(公社)地盤工学会関東支部発表会や(公社)土木学会関東支部技



小型FWDを用いた現場試験

室内CBR試験

術研究発表会において発表を行っています。

学生の動きとしては、例年、地盤工学会関東支部主催のソイルストラクチャーコンテスト（与えられた地盤材料を用いて構造物を作製し、強度等を競うコンテスト）に学部生が参加し、日頃の研究や勉強成果を活かしています。

また、昨今の状況のため開催が延期になっていますが、地盤工学を研究する学生や研究者が集まり懇親を深める三上杯バレーボール大会と関東大学地盤研究室対抗ソフトボール大会に研究室全員で参加し、他大学の学生や他研究機関の研究者達との情報交換、懇親を深めています。

●卒業研究テーマ

- ① 舗装用強化ジオシンセティックスの耐久性および排水性評価
- ② 軽量化地盤材料による埋設物への土圧低減特性
- ③ 乱された関東ロームの力学特性
- ④ 路床・路盤の弾性係数に関する研究
- ⑤ 土系舗装の性能指標に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ① 交通地盤工学（交通施設の地盤工学）とは？
- ② 大地震・集中豪雨等による地盤災害とその対策技術
- ③ 地盤構造物への新素材・新材料の利用技術
- ④ 路床・路盤の性能評価に関する研究
- ⑤ フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究は地盤力学Ⅰ、Ⅱと地盤材料実験を履修（同時履修可）。

TOPICS 交通システム工学科配置図

4F	道路マネジメント 演習室 745B室	道路マネジメント研究室 下川 教授 吉岡 助教 745A室 内線5503	運輸交通計画研究室 轟 教授 兵頭 助教 744室 内線5219	運輸交通計画演習室 743B室	
3F	交通システム研究室 福田 教授 石坂 准教授 菊池 助手 739室 内線5355	交通環境研究室 藤井 教授 伊東 教授 738室 内線6476	交通環境演習室 737室	交通システム演習室 735室	
2F	交通システム工学科 事務室 熊田・高梨 7214室 内線5239	交通システム工学輪講室 7213室	空間情報研究室 佐田 教授 江守 准教授 7212室 内線8147	交通計画研究室 小早川 教授 田部井 助手 7211室 内線5242	交通現象解析室 7210室
1F	鉄道構造研究室 谷口 教授 関口 助手 7111室 内線5240	(鉄道構造研究室・演習室) 齊藤 准教授 7110室 内線5241	空間情報演習室 719室	交通まちづくり工房 (地盤工学演習室) 718室	地盤工学研究室 峯岸 教授 山中 助教 717室 内線5217

- 2号館：舗装・地盤系実験室（201、202）……………内線5418
- 7号館：コンクリート・構造系実験室（704）……………内線5236
- 社会基盤工学系実験 建設材料系……………内線5216
- 地盤・舗装材料系……………内線5584

- 測量実習センター……………内線5322
- 駿河台校舎タワースコラ6階：交通システム工学科共通研究室（S611室）……………内線976
- ダイヤルイン 03-3259-0976

ダイヤルイン 047-469-(内線番号)

事務室 FAX : 047-469-2581

令和3年度 修士論文・卒業研究

修士論文

対向直進車を考慮した右折車と横断者の危険事象の発生状況に関する研究 指導：小早川 悟 教授	石田翔平	立地適正化計画での縮退エリアにおける住民の居住意向の実態の分析と転居を推進するための施策の検討 指導：福田 敦 教授	田代大智
右折車線における青丸表示中の捌け台数に関する研究 指導：下川澄雄 教授	岩澤和輝	フィリピン・メトロセブにおける出発時間・経路選択行動を考慮した混雑課金額の設定に関する研究 指導：福田 敦 教授	DUAN KAIFENG
VRを用いた健常者視点と車いす利用者視点における混雑度を考慮した吊下げ型サインの判読範囲に関する研究 指導：江守 央 准教授	木戸慎也	QZSSとGNSSを併用した歩行時の測位状況と電波遮蔽環境との関係についての研究 指導：佐田達典 教授	照井理仁
位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる道路構造物の計測点群にノイズが発生する素材条件とレーザ照射条件に関する研究 指導：佐田達典 教授	笹野拓海	非車線遵守型多車種混合交通における車種間の走行空間を考慮した飽和交通流率の推定 —インド・アーメダバードを対象として— 指導：石坂哲宏 准教授	藤枝和津
広幅員歩道を有する道路における自転車通行空間の整備方法に関する研究 指導：小早川 悟 教授	佐藤拓郎	都市街路交通における高精度GNSS測位の自動走行システムへの適用に向けた信頼性向上方策の検討 指導：佐田達典 教授	宮澤 塁
中国・地方都市における電気自動車普及政策の評価に関する研究—武漢市を対象として— 指導：福田 敦 教授	周 兆絲	タイにおける交通事故発生特性を考慮するためのiRAP Star Ratingの改良に関する研究 指導：福田 敦 教授	御代川 岳
路床土を対象とした各種性能評価試験の精度と関係性に関する研究 指導：峯岸邦夫 教授	宍倉直樹	3次元点群データを用いた歩道路面の形状把握精度の向上手法と車いすの最適走行位置の提案 指導：江守 央 准教授	八木澤柊斗
QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける高精度測位解の点検方法の提案 指導：佐田達典 教授	杉山 海	右左折専用車線における大型車の乗用車換算係数の観測と算出モデルの提案 指導：下川澄雄 教授	劉 毓鑫
発展途上都市における都市鉄道の運賃水準適正化に向けた価格弾力性の分析 指導：福田 敦 教授	高野友宏	ジャカルタ都市圏を対象としたアクティビティベースモデルを用いたロードプライシングとテレワーク政策の評価 指導：福田 敦 教授	WAHYULINATA RIZKY

卒業研究

■ 運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 教授・兵藤 知 助教)	【 】は共同論文指導
市街部信号交差点における右折時対自転車事故リスクの要因分析 織田僚太	自動運転サービス導入ロジックモデルの改良と中山間地域事例の評価 岡本直樹
都心部におけるリンク&プレイスに基づく街路分類と対歩行者交通事故リスク特性の関係分析 渡辺涼介	訪日外国人観光客の宿泊需要に関する要因分析 —東北地方を対象として— 保坂直哉
夜間光データを用いた地域生活圏レベルの発生、集中貨物量の推計 米本 有	アーバンエアモビリティの社会的受容に関する研究 —欧州と日本を比較して— 渡邊竜也
車種の違いを考慮したパーソナルモビリティすれ違い時の歩行者危険感に関する分析 島村一誠	新型コロナウイルス流行前後のマイクロツーリズム意識に着目した観光客の訪問意向分析 —いすみ鉄道を対象として— 伊藤隆晃

超小型モビリティの近距離周遊利用における魅力に関する研究 —大多喜町を対象として—	齋藤光将	都市洪水発生時の交通分野における適応策の評価 —フィリピン・カガヤンデオロ市を対象として—	野中章吾
--	------	--	------

地域鉄道の特性を考慮したクロスセクター効果の算定方法に関する研究 —いすみ鉄道を対象として—	高木啓太郎	右折車線の適切な利用促進に向けた信号制御方法の提案 —船橋駅前のUターン車両を対象にして—	深谷鉦平
---	-------	--	------

地域鉄道における貨客混載事業の導入可能性に関する研究 —いすみ鉄道を対象として—	臺 大樹	フィリピン・セブのマクタン島連絡橋における所要時間を平準化するための転換交通量の推計 —マイクロ交通シミュレーションによる評価—	吉田直揮
---	------	---	------

地域鉄道を目的地としたトリップの周遊パターンに関する研究 —いすみ鉄道を対象として—	筒井悠太	15-minute Cityの概念に基づいた人口および公共施設の集約による効果の分析 松田さくら	
---	------	---	--

Bluetoothを用いた地域鉄道車内での乗車人数推計手法の検討 乗次海翔		タイの多車線国道におけるUターン車両のギャップアクセプタンスモデルの構築 鈴木駿太郎	
--	--	---	--

■ 交通システム研究室 (福田 敦 教授・石坂哲宏 准教授)

マルチモーダルアプリケーションによる利用交通手段選択の転換可能性の検証 —旅行時間の信頼性に関する情報提供効果の推定—	相澤一樹	■ 交通環境研究室 (藤井敬宏 教授・伊東英幸 准教授) …	
		バリアフリー基本構想の改定に向けた改善課題の検討 —千葉県我孫子市を対象として—	富澤太理

タイムラグと周辺エリアデータの利用有無を考慮したMacroscopic Fundamental Diagramの短期予測 —インド・アーメダバードを対象として—	伊佐友希	車いす利用者の生活関連経路における通行満足度評価 —千葉市稲毛区を対象として—	遠藤彰文
---	------	--	------

タイ・バンコクの鉄道事業における運営方法の比較分析 岩浪恒太		千葉県君津市清和地区のスクールバスの空き時間活用に関する検討 太田行信	
-----------------------------------	--	--	--

インド・アーメダバードにおける混合交通の走行空間余裕度の計測 大庭 空		子育て世帯を対象としたデマンド型交通の運行改善の検討 —東京都東久留米市を対象として—	高橋淳哉
--	--	--	------

タイ地方都市におけるプローブデータを用いた都市洪水発生が交通状態に与える影響の分析 小川泰嵩		千葉県匝瑳市における新デマンド型交通の導入効果の検討 土屋大樹	
---	--	------------------------------------	--

COVID-19の感染拡大が食品ECの利用行動に与えた影響の分析 柿鳥里香		コミュニティバスの路線再編による本格運行に向けた運行評価 —静岡県三島市「せせらぎ号」を対象として—	藤枝 熙
--	--	---	------

多くの欠損値を含む交通データへの深層学習手法の適用可能性の検証 黒子大輔		ウーブン・シティと連携した自動運転車導入による地域まちづくりの検討 —静岡県裾野市Y-CITYを対象として—	石鍋陽香
---	--	---	------

都市鉄道の価格弾力性の推計 —ジャカルタMRTを対象として—	坂本裕哉	時空間暴露量を用いた歩行空間評価による旧町内の歩行者用通路の検討 —静岡県下田市を対象として—	井上 颯、須田達也
-----------------------------------	------	--	-----------

タイ・ナコンラチャシマ県における速度超過および交通事故との関係性の分析 高橋洋貴		コミュニティバスの利用促進に向けた潜在需要の推計 —千葉県成田市下総地区を対象として—	坂寄優祐
---	--	--	------

バンコクの都市鉄道駅周辺における歩行環境の評価 竹内優斗		過疎地域における住民主体の送迎システム導入の可能性に関する研究 —福島県三島町を対象として—	佐藤令於
---------------------------------	--	---	------

LSTMを用いたMacroscopic Fundamental Diagramによる交通状態推定 —アメリカ・カリフォルニアのフリーウェイを対象として—	田中聡紀	北海道国道44号の糸魚沢アーチカルバートを対象とした動物用横断施設の利用実態分析 久和雅人	
---	------	--	--

		国道36号の道路周辺環境を考慮したエゾシカと車両の事故発生要因分析 山本容子	
--	--	---	--

自動車のヘッドライト点灯によるヤンバルクイナの挙動分析 五島真帆	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける異なる遮蔽環境下での信号強度の閾値設定に関する研究 武藤知希
アマミノクロウサギのロードキル発生による社会的費用の推計 今橋陽介	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける補強対象衛星数増加後の仰角マスク設定値に関する研究 佐藤拓実
リニア中央新幹線の環境影響評価に係る住民説明会の参加要因の分析 —山梨県を対象として— 坂 珠希	VRS測位における異なる遮蔽環境下での最適な衛星測位システムの組み合わせに関する研究 山口龍也
■ 空間情報研究室 (佐田達典 教授・江守 央 准教授) …	■ 交通計画研究室 (小早川 悟 教授) ……………
UAVを用いたフォトグラメトリによる段差抽出の精度検証 山田裕人	複合ビルに搬入する貨物量から見た必要荷受けスペースの算出に関する研究 安藤由美香
撮影時の照度がSfMによる3次元点群モデルの精度へ与える影響についての研究 中村祐太	建替え方法の違いが附置義務緩和による駐車場整備台数に与える影響 —東京都千代田区内神田地区を対象として— 山本聡志
LCD式車内案内表示装置における表示内容と表示時間による見やすさに関する研究 ～訪日外国人旅行者と知的・発達・精神障害のある人を対象として～ 山田智大	駐車場の集約化のための料金変動に関する研究 小林 涼
VRを用いた車椅子利用者視点における床サインの視認距離と判読距離を対象とした実験 福田啓紀	大規模小売店舗の駐車場出入口における交通容量に関する研究 宮崎良多
高齢者を想定した高齢者疑似体験装置とVRおよびHMDを活用したサインの発見率に関する実験 吉澤宏平	大規模小売店舗の駐車場出入口における安全性の基礎的分析 湯浅 陸
MMSの走行速度とレーザスキャナの計測方式に着目したレール形状の計測精度比較 小棚紗希	モバイルビッグデータを活用した交通アセスメントの可能性に関する研究 安田智博
MMSを用いたコンクリート舗装損傷部の計測における精度検証 土田康永	旅行速度の変化からみた生活道路における交通安全対策の効果分析 花川英人
MMSによる滑走路面形状計測におけるレーザスキャナ方式と走行位置及び速度が計測精度に及ぼす影響に関する研究 山岡 響	交通量自動計測システムTRAVICによる経路分析の精度向上に関する研究 奈良貞桜人
MMSのレーザ計測方式と計測条件に着目した上部構造物の点検の可能性に関する研究 山中 陸	車両の走行状況に着目した無信号横断歩道における車両の譲りに関する研究 武田東輝
MMSの測定時走行位置の違いがGISを用いた道路上のバリアの可視化に与える影響に関する研究 竹内征矢	信号交差点でのすり抜け車両が右折車と横断者の錯綜に与える影響の分析 行武颯斗
GNSS測位の自動バレーパーキングにおける車両誘導への適用可能性の検討 前田英里奈	生活道路内の交差点を対象とした自転車利用者の安全確認の実態分析 持田開斗
都市部移動体測位におけるVRS方式の信頼性評価と複数衛星系の最適な組み合わせの検証 山寺祐太	歩道上に設置された自転車通行空間の通行実態分析 山口洸祐
QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける補強対象衛星数増加後の異なる遮蔽環境下での精度検証 隅田早也香	■ 道路マネジメント研究室 (下川澄雄 教授・吉岡慶祐 助教) 環状道路の利用状況と道路構造に関する一考察 岩下将大
QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける衛星測位システムの組み合わせに関する研究 田村悠太郎	拠点間連絡のための移動機能が期待される幹線道路の利用実態分析 青木優汰

ETC構成装置の打切りデータを考慮した故障原因別、環境要因別の生存確率推定 宮田隆太郎【桑原雅夫】	小型FWD装置におけるゴムバッファのバネ値を考慮したたわみ補正式の提案 岩村晃大
都市間高速道路の臨界状態における大型車の乗用車換算係数に関する研究 岡野遙平	細粒化に対する抵抗性試験の測定精度 弓崎裕矢
片側3車線の高速道路における第2車線の交通特性に関する分析 稲田大貴	軟弱路床に用いる表面強化不織布の耐久性に及ぼす敷設状態の影響 志賀杏樹
車道上での混在状況を想定した走行実験に基づく電動キックボード・自動車相互の走行評価 内田健人	ジオセル工法で用いる支持力算定式の補強路盤への適用性 荒木大空
中心位置が偏心するラウンドアバウトの走行速度特性分析 久野裕大	ジオグリッド補強土壁の鉛直変位と壁面変位に及ぼす地下水位の影響 坂田康太郎
ラウンドアバウト中央島のランドスケープの評価と好事例の選定 後藤唯斗	ジオグリッド補強土壁の強度特性に及ぼす地下水位の影響 飯田裕介
交通シミュレーションを活用した跨道橋撤去時の周辺道路への影響分析 —新居跨道橋を対象として— 吉村将輝	隣接する埋設管同士の挙動及びLWGMEを用いた対策工法の効果 館野 捷
無信号交差点の交通容量推定方法に関する日米独の比較検証 遊佐風子	溶融スラグ混合土の一軸圧縮強度 松原良治
地方部道路を対象とした信号交差点の直進車線における飽和交通流率の分析 高橋明暉	ジオポリマーによる地盤改良の検討 小澤 陸
右左折専用車線における大型車の乗用車換算係数に関する分析 岡村怜真	路床土の変形特性と三軸特性の関係性 山中祐弥
多車線交差点における右折車のギャップアクセプタンス挙動の分析 野田 祥	平板載荷試験と小型FWD試験の関係 相澤佑斗
信号交差点の歩行者に対する左折車のギャップアクセプタンス挙動と交通容量に関する分析 加藤達也	■ 鉄道基盤工学研究室 (谷口 望 教授) …………… 既設鋼製柱の複合構造化による補強方法に関する解析的検討 石井聖梨奈
■ 構造工学研究室 (鈴木 圭 教授・齊藤準平 准教授) …	リベット接合の施工時残留応力に関する検討 星野正太郎
圧縮応力の付与状態や付与期間の違いがコンクリートの塩分浸透抵抗性に及ぼす影響 城福和輝・横 一馬	腐食欠損した鋼桁の耐荷力に関する検討 岡野健太・山岡祥久
圧縮応力付与によるコンクリートの内部空隙構造の変化の解明 北田章人・富澤俊介	構造目地を有する合成桁の影響分析 鳩山絃太・藤井 開
3次元X線CTと毛細血管造影剤の含侵によるひび割れの検出 長谷川稔記・宮部龍洋	SRC桁の施工時死荷重の影響に関する検討 加瀬太都・鷺巣祥紀
効率的な道路橋点検を目指した健全性診断結果と環境・気象条件との関係分析 菊地 亮・鈴木嵩流	ポリマーセメントモルタル被覆を用いた鋼橋に対する施工確認試験と耐久性検討 天野耕太郎・渡辺一矢
■ 地盤工学研究室 (峯岸邦夫 教授・山中光一 助教) ……	
ILブロック舗装の支持力特性に及ぼす目地砂の影響 鈴木溪斗	
大版ブロック舗装の支持力特性 杉田梨夏	

令和3年度 教員・研究員の研究・活動 2021.4.1~2022.3.31

研究業績 2021.4.1~2022.3.31

掲載誌・出版元 題目・作品名・書名 教員名など 発表年月

運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 教授・兵藤 知 助教)

■著書

中央経済社 航空・空港政策の展望—アフターコロナを見据えて 第20章 自然災害と空港の備え 轟 朝幸 21年5月
【監修】関西空港調査会
【編著】加藤一誠
西藤真一 幕 亮二
朝日亮太

■審査論文

(一社)交通工学研究会 非幹線道路ブロックエリア内における人対車両交通事故リ 兵頭 知 岡田航平 21年8月
第41回交通工学研究発表会論文集 スク要因分析 轟 朝幸

(一社)交通工学研究会 事故類型に着目した非幹線道路ブロックエリアにおける人 兵頭 知 岡田航平 22年2月
交通工学論文集 対車両事故リスク要因分析 轟 朝幸
8巻2号

(公社)土木学会 実務者の認知に着目した自動運転サービス導入の検討ポイ 馬渡真吾 中西勇稀 22年3月
土木学会論文集F5 (土木技術者実践) ントの評価に関する研究~中山間地域を対象として~ 轟 朝幸 兵頭 知
78巻1号

■口頭発表

(公社)土木学会 地方部における自動車運転車両を活用した交通サービス導 馬渡真吾 中西勇希 21年5月
第3回土木技術者実践論文研究発表会 入プロセスの評価に関する分析 轟 朝幸 兵頭 知

(公社)土木学会 COVID-19の影響下における地方鉄道での感染症対策に対 西脇雅人 土屋貴寛 21年6月
第63回土木計画学研究発表会 する利用者意識の構造分析 轟 朝幸 兵頭 知

(公社)土木学会 道路情報板による交通事故リスク情報の継続的な提供とド 西内裕晶 大藤武彦 21年6月
第63回土木計画学研究発表会 ライバーの意識に関する基礎分析 兵頭 知 倉内慎也
吉井稔雄

(公社)日本道路協会 道路情報板を活用した交通事故リスク情報提供とドライ 西内裕晶 大藤武彦 21年11月
第34回日本道路会議 バーの意識に関する分析 兵頭 知 倉内慎也
吉井稔雄

(公社)土木学会 わが国におけるビジネス航空の特性分析—国際比較を通じ 轟 朝幸 熊澤将之 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 て— 兵頭 知 稲垣具志

(公社)土木学会 台風による成田国際空港のアクセス機能不全に関する実態 轟 朝幸 兵頭 知 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 分析—道路交通を中心として— 西脇雅人 三木田龍一

(公社)土木学会 道路情報板を活用した交通事故リスク情報提供によるドラ 兵頭 知 西内裕晶 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 イバーの事故リスク情報態度・安全運転意識変化の継続効 大藤武彦 倉内慎也
果の検証 吉井稔雄

(公社)土木学会 Bluetooth LEを用いた地域鉄道における混雑状況計測手法 西脇雅人 轟 朝幸 22年3月
第49回関東支部技術研究発表会 の検討 兵頭 知

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

ケーブルTV ネット296 高齢ドライバーによる事故を減らすには# 5 轟 朝幸 21年4月
NEXTEP ~地域から...未来への提言~

産経新聞(朝刊) 閑空 孤立の教訓を生かし強靱化(コメント掲載) 轟 朝幸 21年9月1日

朝日新聞(夕刊) 地下鉄2新路線 構想の行方は(コメント掲載) 轟 朝幸 21年9月21日

読売新聞(朝刊) 駐輪マナー悪化目立つ(コメント掲載) 轟 朝幸 21年11月9日

交通システム研究室 (福田 敦 教授・石坂哲宏 准教授・菊池浩紀 助手)

■審査論文

IOP Conference Series: Earth and Analysis of Travel Behaviors during Floods in Ubon Noriyasu Tsumita, 21年7月
Environmental Science 832(1), Ratchathani City, Thailand Sittha Jaensirisak,
pp.012034 Hiroki Kikuchi,
Atsushi Fukuda

Sustainability 13 (No.20), 11227

Application of Macroscopic Fundamental Diagram under Flooding Situation to Traffic Management Measures

Suwanno Piyapong, 21年10月
Rattanaporn Kasemsri,
Kaifeng Duan,
Atsushi Fukuda

Proceedings of the Second International Conference of Construction, Infrastructure, and Materials, Lecture Note in Civil Engineering, pp.303-316

Analysis of Travel Behavior Under Flooding Condition Based on Probe Data in Ubon Ratchathani City, Thailand

Noriyasu Tsumita, 22年1月
Kohga Miyamura,
Sittha Jaensirisak,
Atsushi Fukuda

KKU ENGINEERING JOURNAL

Reduction of vehicle fuel consumption from adjustment of cycle length at a signalized intersection and promotional use of environmentally friendly vehicles

Napon Srisakda, 22年1月
Palinee Sumitsawan,
Atsushi Fukuda,
Chaiwat Sangsririchan,
Tetsuhiro Ishizaka

日本環境共生学会 環境共生 38巻1号

新型コロナウイルス感染症の流行における各国の対策が外出行動及び大気汚染へ与える影響に関する分析

菊池浩紀 福田 敦 22年3月
牛嶋祥寛

■口頭発表

2021 IEEE 93rd Vehicular Technology Conference (VTC2021-Spring)

Travel Time Prediction and Route Performance Analysis in BRTS based on Sparse GPS Data

Anand Kakarla, 21年4月
Venkata Satish Kumar
Reddy Munagala,
Tetsuhiro Ishizaka,
Atsushi Fukuda,
Soumya Jana

JSDカンファレンス2021

中国の地方都市における電気自動車普及政策の評価に関する研究 —中国・武漢市を対象として—

周 兆絲 菊池浩紀 21年6月
積田典泰 福田 敦
石坂哲宏

JSDカンファレンス2021

財務評価モデルによるバンコク都市鉄道の運賃改定の検討

高野友宏 福田 敦 21年6月
Varameth Vichensan

Twenty-seventh National Conference on Communications (NCC 2021)

Spatio-Temporal Prediction of Roadside PM2.5 Based on Sparse Mobile Sensing and Traffic Information

Anand Kakarla, 21年7月
Venkata Satish Kumar
Reddy Munagala,
Tetsuhiro Ishizaka,
Atsushi Fukuda,
Soumya Jana

日本環境共生学会 第24回学術大会

新型コロナウイルス感染症の流行における各国の対策が外出行動及び大気汚染へ与える影響に関する分析

菊池浩紀 福田 敦 21年9月
牛嶋祥寛

日本環境共生学会 第24回学術大会

Analysis of Impacts on Traffic Situation under Urban Flooding based on Probe Data in Developing Cities

Kohga Miyamura, 21年9月
Noriyasu Tsumita,
Piyapong Suwanno,
Sittha Jaensirisak,
Atsushi Fukuda

4th International Conference on Sustainable Infrastructure

Evaluating Impacts of Road Pricing and Teleworking Policy with Activity-Based Travel Demand Model

Rizky Wahyulinata, 21年10月
Noriyasu Tsumita,
Sideney Schreiner,
Atsushi Fukuda

Proceedings of EASTS Vol.13

Evaluation of Adaptation Measures to Urban Flooding in Transport Sector: The Case Study of Ubon Ratchathani City, Thailand

Noriyasu Tsumita, 21年11月
Sittha Jaensirisak,
Atsushi Fukuda

Proceedings of EASTS Vol.13

Analysis of Demand and Supply Gap on Mass Rapid Transit System: A Case Study of Southeast Asian Cities

Rizky 21年11月
WAHYULINATA,
Noriyasu TSUMITA,
Atsushi FUKUDA

Proceedings of EASTS Vol.13

Assessment of Mobility and Traffic Emission by Controlling the Speed at the Intersection under Heterogeneous Traffic Flow

Aditya Bethala, 21年11月
Mohammed Asif
Nawaz Shaik,
Tetsuhiro Ishizaka,
Digvijay Sampatrao
Pawar

Proceedings of EASTS Vol.13

Performance Evaluation of Dynamic Reversible Lane and Signal Optimization in Mactan, Metro Cebu

Kaifeng Duan, 21年11月
Aditya Bethala,
Piyapong Suwanno,
Tetsuhiro Ishizaka,
Atsushi Fukuda

Proceedings of EASTS Vol.13	Evaluation of Accessibility with and without Proposed Rail Transit cases in Selected Southeast Asian Cities	Noriyasu Tsumita, Aditya Bethala, Rizky Wahyulinata, Varameth Vichiensan, Alexis Fillone, Vu Anh Tuan, Ling Houng, Atsushi Fukuda	21年11月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	ソーシャルフォースモデルを用いたインド混合交通の走行状態の評価	石坂哲宏 Roy Debaditya 松野下翔	21年12月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	人口減少下の都市における15-minute cityを前提とした都市集約の効果分析—住民の移動コスト及び公共施設維持管理費用に着目して—	菊池浩紀 福田 敦 北方 暁	21年12月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	iPAP Star Ratingを活用した交通事故危険箇所抽出方法の改善に関する研究—タイ、ナコンラチャシマ県を対象として—	御代川岳 福田 敦 Rattanaporn Kasemsri 菊池浩紀 Tuenjai FUKUDA	21年12月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	東南アジアにおける都市鉄道の運賃弾力性の検討	高野友宏 森地 茂 福田 敦	21年12月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	バンコクの都市鉄道駅周辺における歩行空間の実態分析	福田 敦 Varameth Vichensan 積田典泰 Aung Hiet Hiet Malaitham Sathita	21年12月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	Activity Based Modelを用いた洪水発生時の交通需要推計手法の検討—タイ・ウボンラチャタニ市を対象として—	積田典泰 Rizky Wahyulinata Sideney Schreiner 端野良彦 福田 敦	21年12月
6th Conference of Transportation Research Group of India (CTRG-2021)	Real-world CO ₂ and CO emissions estimation from diesel auto rickshaws on Indian urban and rural roads	Chandrashekar C, Digvijay S Pawar, Pritha Chatterjee, Atsushi Fukuda, Tetsuhiro Ishizaka	21年12月
The 14th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2021	Evaluating Impacts of Teleworking Policy in Jakarta Metropolitan Area by The Analysis of Activity Pattern	Rizky Wahyulinata, Noriyasu Tsumita, Sideney Schreiner, Atsushi Fukuda	21年12月
The 14th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2021	Dynamic Simulation Analysis of Impact on Teleworking Policy for After COVID-19 Using Land-Use and Transport Model: Case Study of Japanese City within Population Decline	Hiroki Kikuchi, Atsushi Fukuda	21年12月
The 14th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2021	Study on Improvement of Star Rating Approach to Extract Traffic Hazardous Location in Nakhon Ratchasima Province, Thailand	Takeru Miyokawa, Hiroki Kikuchi, Tuenjai Fukuda, Rattanaporn Kasemsri, Atsushi Fukuda	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	タイ国道12号におけるプローブ走行速度を考慮した交通事故発生要因の分析	上敷領志仁嗣 西坂歩夢 折笠湧人 濱中佑月 石坂哲宏 福田 敦 菊池浩紀 Thaned Steinem	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	バンコク・BTSシーロム線沿線の街路における歩行環境の評価	久松和真 高橋功貴 高波 薫 積田典泰 福田 敦 石坂哲宏 菊池浩紀	21年12月
(公社)土木学会 関東支部第49回技術研究発表会	インドにおける混合交通下での交差点飽和交通流率解析とその低下要因の分析	藤枝和津 田中康介 石坂哲宏	22年3月
(公社)土木学会 関東支部第49回技術研究発表会	システム・ダイナミクスモデルを用いた電気自動車普及政策の評価に関する研究—中国・武漢市を対象として—	周 兆絲 菊池浩紀 福田 敦 石坂哲宏	22年3月

(公社)土木学会 関東支部第49回技術研究発表会	居住誘導区域外に在住する住民の居住要因に着目した転居意向に関する研究	田代大智 菊池浩紀 福田 敦 石坂哲宏	22年3月
(公社)土木学会 関東支部第49回技術研究発表会	タイ・バンコクの鉄道事業における運営方法の比較分析	岩波恒太 福田 敦 石坂哲宏	22年3月
(公社)土木学会 関東支部第49回技術研究発表会	都市型水害発生に対する交通面からみた適応策の評価—フィリピン・カガヤンデオロ市を対象として—	野中章吾 積田典泰 福田 敦	22年3月
(公社)土木学会 関東支部第49回技術研究発表会	Optimal Congestion Pricing based on Bi-Level Model Considering Departure Time Choice in Metro Cebu Philippines	Kaifeng Duan, Tetsuhiro Ishizaka, Atsushi Fukuda	22年3月
■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）			
(公社)日本交通政策研究会 日交研シリーズA-824	これからの道路交通政策—海外との違いを考える— 第4章 タイにおける道路整備の考え方	福田 敦	21年12月
交通環境研究室（藤井敬宏 教授・伊東英幸 准教授）			
■著書			
環境アセスメント学会	先手先手の環境配慮が肝心「配慮書を活用しよう」	片谷孝孝 伊東英幸 上杉哲郎 尾上健治 傘本宏夫 柴田裕希 錦澤滋雄 松島正興 宮下一明 持木克之	21年9月
■審査論文			
International Journal of GEOMATE 20巻81号 pp.93-99	ESTIMATION OF HABITAT SUITABILITY AREA OF ENDANGERED SPECIES USING MAXENT IN FUKUSHIMA PREFECTURE, JAPAN	Hideyuki Ito, Hiromu Tomita, Makoto Ooba, Takahiro Fujii	21年5月
Proceedings of 7th International Conference on Structure, Engineering & Environment pp.328-334	EXTERNAL COSTS CAUSED BY HOKKAIDO SIKA DEER-VEHICLE COLLISIONS IN HOKKAIDO, JAPAN	Hideyuki Ito, Masanori Wada, Takahiro Fujii	21年11月
■口頭発表			
環境アセスメント学会 第20回大会	山梨県におけるリニア中央新幹線の環境影響評価に対する住民の意識分析	伊東英幸 菊池隆夫 藤井敬宏	21年9月
(一社)北海道開発技術センター 第21回野生生物と交通研究発表会 pp.55-58	諸外国のロードキルデータ収集システムの実態分析	伊東英幸 越川結葵 藤井敬宏	22年2月
■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）			
(公財)高速道路調査会 高速道路と自動車 令和3年4月号	時評：わが国における環境共生型道路整備に向けた課題	伊東英幸	21年4月
空間情報研究室（佐田達典 教授・江守 央 准教授）			
■審査論文			
応用測量論文集 32巻pp.13-22	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる側壁の円盤層厚検出精度に関する研究	笹野拓海 大木亜美 藤村大輔 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央	21年9月
応用測量論文集 32巻pp.55-66	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける仰角マスクの設定値に関する研究	山田 真 佐田達典 江守 央	21年9月
応用測量論文集 32巻pp.67-76	歩行移動測位を対象とした準天頂衛星システムと他のGNSSの併用における測位精度の検証	照井理仁 佐田達典 江守 央	21年9月
(公社)土木学会 土木学会論文集D3（土木計画学） 78巻2号	点群データを用いた車いすの歩道上の最適走行指示に向けた路面形状把握の精度向上の検証	八木澤柊斗 江守 央 佐田達典	22年3月
(公社)土木学会 土木学会論文集F3（土木情報学） 78巻2号	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSにおける地物の素材特性と計測条件が取得点群に及ぼす影響の検証	笹野拓海 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典	22年3月

(公社)土木学会 土木学会論文集F3 (土木情報学) 78巻2号	準天頂衛星システムと複数のGNSS併用時の電波遮蔽の有無による測位精度比較	照井理仁 江守 央	佐田達典	22年3月
(公社)土木学会 土木学会論文集F3 (土木情報学) 78巻2号	街路移動体のGNSS測位における信号強度の差分を用いた車両挙動別の衛星除外効果の検証	宮澤 壘 江守央	佐田達典	22年3月
(公社)土木学会 土木学会論文集F3 (土木情報学) 78巻2号	点群データに含まれるノイズの統計的・幾何的手法を用いた自動的除去に関する研究	峰岸 樹 佐田達典	江守 央	22年3月
(公社)土木学会 土木学会論文集F3 (土木情報学) 78巻2号	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける移動体での測位精度検証	山田 真 江守 央	佐田達典	22年3月
■口頭発表				
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	駅サインの形式と文字の大きさに関するVR技術を用いた判読性評価	木戸慎也 佐田達典	江守 央	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	ARを用いたサインを投影したスマートグラス装着状態での歩行時間の検証	宮阪浩平 佐田達典	江守 央	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMS計測におけるターゲット素材とスキャン角度の違いによる取得点群の検証	笹野拓海 白石宗一郎 岩上弘明	山口裕哉 岡本直樹 佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	位相差方式レーザスキャナ搭載型MMSによるトンネル覆工コンクリートのうき検出を想定した層厚検出実験	藤村大輔 白石宗一郎 岩上弘明 江守 央	山口裕哉 岡本直樹 佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	マルチパス環境下の高精度移動体測位におけるGPS/QZSS/Galileoの利用効果に関する研究	宇野敬太 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	アーバンキャニオン環境下での後処理型キネマティック測位とVRS測位との移動体比較実験	宮澤 壘 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける仰角マスク別での測位精度の検証	山田 真 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	準天頂衛星システムを利用した歩行移動測位の精度検証	照井理仁 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける高精度測位解の分布に関する研究	杉山 海 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	移動体測位における天空図を用いた衛星除外方法による精度向上効果の分析	大手駿平 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第76回年次学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける信号強度の閾値設定に関する研究	入倉 望 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第46回土木情報学シンポジウム	点群データに含まれるノイズの統計的・幾何的手法を用いた自動的除去に関する研究	峰岸 樹 佐田達典	江守 央	21年9月
(公社)土木学会 第46回土木情報学シンポジウム	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSにおける取得地物の素材種別による特性の検証	笹野拓海 白石宗一郎 岩上弘明	山口裕哉 岡本直樹 佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第46回土木情報学シンポジウム	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける移動体での測位精度検証	山田 真 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第46回土木情報学シンポジウム	街路移動体測位におけるSNR値の差分を用いた車両挙動別の衛星除外効果の検証	宮澤 壘 江守 央	佐田達典	21年9月
(公社)土木学会 第46回土木情報学シンポジウム	遮蔽環境での準天頂衛星システムと他のGNSS併用時の測位精度比較	照井理仁 江守 央	佐田達典	21年9月
(一社)日本福祉のまちづくり学会 第24回全国大会	3次元点群データを用いた歩道形状の検出精度向上に関する検証	八木澤柊斗 佐田達典	江守 央	21年10月
(一社)日本福祉のまちづくり学会 第24回全国大会	VRを用いた空間混雑度別の車いす利用者視点のサインの判読に関する実験	木戸慎也 佐田達典	江守 央	21年10月
第65回日本大学理工学部学術講演会	VRを用いた健常者視点と車いす利用者視点におけるサイン判読中の首振り回数に関する研究	木戸慎也 佐田達典	江守 央	21年12月

第65回日本大学理工学部学術講演会	MMS計測位置の違いが歩道形状の三次元点群データ検出精度へ及ぼす影響	八木澤柊斗 佐田達典	江守 央	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	電波遮蔽環境ごとのQZSSと他GNSS併用時の測位状況に関する研究	照井理仁 江守 央	佐田達典	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける衛星測位システムの組み合わせに関する研究	田村悠太郎 江守 央 杉山 海 山田 真	佐田達典	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける補強対象衛星数拡大後の信号強度の閾値設定に関する研究	武藤知希 江守 央 山田 真	佐田達典 入倉 望	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける測位解の高精度化の検討	杉山 海 江守 央	佐田達典	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおけるFix率とDOP値の天空率を用いた評価	山田 真 江守 央	佐田達典	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	基準局により異なる観測信号強度がもたらす都市部GNSS測位の利便性評価	宮澤 壘 江守 央	佐田達典	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	オープンスカイ環境下でのVRS測位における衛星測位システム選択に関する研究	入倉 望 江守 央	佐田達典 山口龍也	21年12月
第65回日本大学理工学部学術講演会	街路周辺の建物材質に着目した信号強度とマルチパス誤差の比較検証	大手駿平 江守 央	佐田達典	21年12月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	点群データによるグリッドデータを活用した車いすの最適走行指示に向けた歩道路面のマイクロなバリアの可視化	八木澤柊斗 佐田達典	江守 央	21年12月
(公社)土木学会 第64回土木計画学研究発表会	VRを用いた健常者視点と車いす利用者視点における吊り下げ型サインの判読性評価に関する研究	木戸慎也 佐田達典	江守 央	21年12月
■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)				
(公社)日本測量協会 測量 71巻7号pp.19-20	応用測量 多様な測量手法からの選択	佐田達典		21年7月
(公社)計測自動制御学会 計測と制御 60巻10号pp.721-725	高精度GNSS測位技術の測量分野での利用動向	佐田達典		21年10月
(一社)日本建設機械施工協会 建設機械施工 73巻12号p.4	ICT施工におけるセンサ特性の理解	佐田達典		21年12月
交通計画研究室 (小早川 悟 教授・田部井優也 助手)				
■著書				
(公社)日本交通政策研究会 日交研シリーズA-821	貨物車の駐車実態に基づいた荷さばき駐車スペース確保のための分析	小早川悟		21年12月
■審査論文				
(一社)交通工学研究会 第41回交通工学研究発表会論文集	交差点流入部における自転車通行空間整備に関する交通実態の分析—幅員の狭い交差点を対象として—	佐藤拓郎 小早川悟 小柳純也 田部井優也 大谷祐樹	小早川悟	21年8月
(一社)交通工学研究会 第41回交通工学研究発表会論文集	生活道路に面した大規模小売店舗における交通アセスメントの事後調査	田部井優也 小早川悟 五十嵐千毅	小早川悟	21年8月
(一社)交通工学研究会 第41回交通工学研究発表会論文集	単路部無信号横断歩道における車両の譲りに着目した交通管理の国際比較に関する研究	吉村暢洋 田部井優也	小早川悟	21年8月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 (8巻2号)	開店後の交通調査から見た生活道路に面した大規模小売店舗における交通アセスメントの評価	田部井優也 小早川悟 五十嵐千毅	小早川悟	22年2月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 (8巻2号)	幅員の狭い交差点流入部の自転車通行空間整備方法の違いによる自転車と自動車の通行実態分析	佐藤拓郎 小早川悟 小柳純也 田部井優也 大谷祐樹	小早川悟	22年2月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 (8巻2号)	歩行者優先のための単路部無信号横断歩道における交通管理の国際比較に関する研究	吉村暢洋 田部井優也	小早川悟	22年2月

■口頭発表

(公社)土木学会 都市計画道路に着目した自転車通行空間整備に関する道路 佐藤拓郎 小早川悟 21年9月
第76回年次学術講演会 現況分析 小柳純也 田部井優也 野村太貴

(一社)日本建築学会 オフィスビルの荷さばき施設計画と貨物の発生集中単単位 濱野百恵 小早川悟 21年9月
2021年度大会学術講演会・建築デザイン に関する研究 田部井優也 発表会

(公社)土木学会 対向直進車を考慮した右折車と横断者の危険事象の発生状 石田翔平 小早川悟 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 況の分析 田部井優也

■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）

自動車交通研究 貨物車の駐車実態に基づいた荷さばき駐車スペース確保の 小早川悟 21年10月
環境と政策2021pp.26-27 方策

NHK シリーズ通学路問題 通学路の安全確保 小早川悟 21年12月1日
首都圏ネットワーク

NHK シリーズ通学路問題 地域の合意形成が解決の鍵 小早川悟 21年12月2日
首都圏ネットワーク

TBS 記録的大雪で各地混乱 立ち往生相次ぐ 小早川悟 21年12月28日
ひるおび

NHK “声を集めて” 通学路に安全を 小早川悟 22年2月28日
未来スイッチ

道路マネジメント研究室（下川澄雄 教授・吉岡慶祐 助教）

■審査論文

(公社)土木学会 地方部の県を形成する都市間連絡のための目標旅行時間に 齊藤浅里 下川澄雄 21年4月
土木学会論文集D3(土木計画学) に関する研究 吉岡慶祐 花房比佐友 76巻5号I_1287-I_1295

(一社)交通工学研究会 実証実験による瓢箪型ラウンドアバウト幾何構造の検討 奥城 洋 吉岡慶祐 21年8月
第41回交通工学研究発表会論文集 石黒雄紀 中根武志 松岡寿章 首藤貴子 張 馨 中村英樹 阿部義典 神戸信人 下川澄雄

(一社)交通工学研究会 ETC2.0プローブデータを用いた観光地渋滞の短期予測 古川泰地 吉岡慶祐 21年8月
第41回交通工学研究発表会論文集 下川澄雄 桑原雅夫 森田緯之

(一社)交通工学研究会 運転者属性に着目した飽和交通流率の変動要因に関する研究 青山恵里 浅見公一 21年8月
第41回交通工学研究発表会論文集 下川澄雄 吉岡慶祐

(一社)交通工学研究会 流入抑制機能を果たすための環状道路の旅行速度の基礎的 吉岡慶祐 下川澄雄 21年8月
第41回交通工学研究発表会論文集 検討 友廣大成 鈴木龍一

(一社)交通工学研究会 ETC2.0プローブデータを用いた観光地渋滞の短期予測 古川泰地 吉岡慶祐 22年2月
交通工学論文集 下川澄雄 桑原雅夫 8巻2号A_249-A_256 森田緯之

(公社)土木学会 交差点の信号遅れを考慮した立体交差点が成立可能となる 真岩優多 下川澄雄 22年3月
土木学会論文集D3(土木計画学) 交通条件の分析 吉岡慶祐 山川英一 77巻5号 藤間翔太

(公社)土木学会 ラウンドアバウト導入後一定期間における走行挙動の比較 吉岡慶祐 下川澄雄 22年3月
土木学会論文集D3(土木計画学) 分析 77巻5号

■口頭発表

(公社)土木学会 電動キックボード利用者の道路交通環境に対する評価要因 川合琉介 伊藤隆也 21年6月
第63回土木計画学研究発表会 分析 鈴木弘司 吉岡慶祐

(一社)交通工学研究会 実証実験による瓢箪型ラウンドアバウト幾何構造の検討 奥城 洋 吉岡慶祐 21年8月
第41回交通工学研究発表会 石黒雄紀 中根武志 松岡寿章 首藤貴子 張 馨 中村英樹 阿部義典 神戸信人 下川澄雄

(公社)土木学会 右折車のギャップアクセプタンス挙動と右折交通容量の分析 岩澤和輝 下川澄雄 21年9月
第76回年次学術講演会 吉岡慶祐 青山恵里

(公社)土木学会 右左折専用車線における大型車の乗用車換算係数と幾何構 劉 毓鑫 山下翔雅 21年9月
第76回年次学術講演会 造・交通特性との関係分析 下川澄雄 吉岡慶祐 青山恵里

(公社)日本道路協会 左折車のギャップアクセプタンス挙動と交通容量に関する 石井和成 下川澄雄 21年11月
第34回日本道路会議 分析 吉岡慶祐

(公社)日本道路協会 日本とドイツの環状道路の交通機能に関する比較分析 友廣大成 下川澄雄 21年11月
第34回日本道路会議 高橋健一 寺村良平 吉岡慶祐

第65回日本大学理工学部学術講演会 都市間高速道路の臨界状態における大型車の乗用車換算係 岡野通平 下川澄雄 21年12月
数に関する研究 吉岡慶祐

第65回日本大学理工学部学術講演会 環状道路の流入抑制機能を果たす道路構造に関する分析 岩下将大 友廣大成 21年12月
下川澄雄 吉岡慶祐

第65回日本大学理工学部学術講演会 無信号交差点の交通容量の算出方法に関する米国との比較 遊佐風子 吉岡慶祐 21年12月
検証 下川澄雄

(公社)土木学会 ラウンドアバウトの利用特性に関する事例分析 鈴木弘司 吉岡慶祐 21年12月
第64回土木計画学研究発表会

(公社)土木学会 日本のラウンドアバウトのデータベース整備とその意義 吉岡慶祐 中村英樹 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 張 馨 高 芸 下川澄雄

(公社)土木学会 走行実証実験に基づく瓢箪型ラウンドアバウトのくびれ形 首藤貴子 吉岡慶祐 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 状の検討 松岡寿章 奥城 洋 張 馨 中村英樹 阿部義典 神戸信人 下川澄雄

(公社)土木学会 青丸表示中の右折車線の捌け台数に関する研究 岩澤和輝 下川澄雄 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 吉岡慶祐 青山恵里

(公社)土木学会 右左折専用車線における大型車の乗用車換算係数の観測と 劉 毓鑫 下川澄雄 21年12月
第64回土木計画学研究発表会 算出モデルの提案 吉岡慶祐 青山恵里

(公社)土木学会 無信号交差点の交通容量推定方法に関する日米独の比較検証 遊佐風子 吉岡慶祐 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 下川澄雄

(公社)土木学会 中心位置が偏心するラウンドアバウトの走行速度特性分析 久野裕大 吉岡慶祐 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 下川澄雄

(公社)土木学会 車道上での混在状況を想定した走行実験に基づく電動キッ 内田健人 吉岡慶祐 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 クボード・自動車相互の走行評価 下川澄雄

(公社)土木学会 片側3車線の高速道路における第2車線の交通特性に関する 稲田大貴 下川澄雄 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 分析 吉岡慶祐

(公社)土木学会 都市間高速道路の臨界状態における大型車の乗用車換算係 岡野通平 下川澄雄 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 数に関する研究 吉岡慶祐

(公社)土木学会 地方部道路を対象とした信号交差点の直進車線における飽 高橋明暉 下川澄雄 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 和交通流率の分析 吉岡慶祐 青山恵里

(公社)土木学会 多車線交差点における右折車のギャップアクセプタンス挙 野田 祥 下川澄雄 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 動の分析 吉岡慶祐

(公社)土木学会 拠点間連絡の移動機能が期待される幹線道路の利用実態分析 青木優汰 下川澄雄 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 吉岡慶祐

(公社)土木学会 信号交差点における左折車の通過確率算出方法の提案 石井和成 下川澄雄 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 吉岡慶祐

(公社)土木学会 道路構造の違いから見た環状道路の利用実態の違いに関する 友廣大成 岩下将大 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 考察 下川澄雄 吉岡慶祐

(公社)土木学会 右左折専用車線における大型車の乗用車換算係数の観測と 劉 毓鑫 岡村怜真 22年3月
関東支部第49回技術研究発表会 算出モデルの提案 下川澄雄 吉岡慶祐 青山恵里

構造工学研究室（鈴木 圭 教授・齊藤準平 准教授）

■審査論文

(公社)日本コンクリート工学会
コンクリート工学年次論文集
43巻pp.670-675

鉄筋腐食時の膨張圧による補修箇所のひび割れおよび剥離挙動 齊藤準平 21年7月

■口頭発表

第65回日本大学理工学部学術講演会

軽量骨材とSBラテックスを用いた繊維コンクリートの強度特性 三宅康平 岸田悠史 21年12月
小山隼人 梶原正義
山本悠太 佐藤 洸
齊藤準平

第65回日本大学理工学部学術講演会

軽量骨材とSBラテックスを用いた繊維コンクリートの付着特性 岸田悠史 三宅康平 21年12月
小山隼人 梶原正義
山本悠太 佐藤 洸
齊藤準平

地盤工学研究室（峯岸邦夫 教授・山中光一 助教）

■審査論文

舗装
56巻 7号 pp.14-19

透水性舗装のフィルター層に用いる表面強化不織布の目付量の検討 山中光一 峯岸邦夫 21年7月
小野寺貴史 横 亮
柳沼宏始

(公社)土木学会
土木学会論文集E1（舗装工学）
77巻 2号I_225-I_231

路床のレジリエントモデュラスを用いた小型FWDの順解析 山中光一 竹内 康 21年12月
川名 太 峯岸邦夫

(公社)土木学会
土木学会論文集C（地圏工学）

空積み構造石積み壁への背面注入補強工法に関する開発 前田剛志 猿谷賢三 22年2月
小池健司 平野光孝
矢島寿一 峯岸邦夫

■口頭発表

(公社)地盤工学会
第56回地盤工学研究発表会

TC202（交通地盤工学）国内委員会の活動とその役割 石川達也 山中光一 21年7月

(公社)地盤工学会
第56回地盤工学研究発表会

路床土を対象としたMr試験とCBR試験の測定精度 宍倉直樹 山中光一 21年7月
峯岸邦夫

(公社)土木学会
第76回年次学術講演会

レジリエントモデュラスを用いた多層弾性解析と小型FWD試験のたわみ量の比較 山中光一 竹内 康 21年9月
川名 太 峯岸邦夫

(公社)土木学会
土木学会第76回年次学術講演会

CBRのばらつきに関する一斉試験 川端伸一郎 関根悦夫 21年9月
山中光一 木幡行宏

(公社)日本道路協会
第34回日本道路会議

アスファルト系砂の細粒化に対する抵抗性とせん断特性 山中光一 柳沼宏始 21年11月
山田和弘 峯岸邦夫

鉄道基盤工学研究室（谷口 望 教授）

■審査論文

(一社)日本鋼構造協会
鋼構造年次論文報告集
No.29, pp.554-559

腐食した鋼板に対する各種3Dスキャナーによる残存板厚計測 村井向一 谷口 望 21年11月
藤山裕太 大庭拓也
大垣賀津雄

(一社)日本鋼構造協会
鋼構造年次論文報告集
No.29, pp.593-603

落橋記録の分類評価に基づく落橋原因と予防手法に関する一考察 齋藤道生 石井喜代志 21年11月
谷口 望 大垣賀津雄

(公社)土木学会
第14回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム講演概要集
No.60（CD）

既設鋼橋の複合構造化リニューアルの耐久性調査 谷口 望 石田 学 21年11月
赤江信哉 久保武明

(公社)土木学会
土木学会論文集A2（応用力学）
77巻 2号

リベット接合部に生じる残留応力の解析的推定に関する研究 谷口 望 柴崎和哉 22年2月
平野雄大 小林寿子

社会的活動

2021. 4. 1～2022. 3. 31

■小早川 悟 教授

(公財)国際交通安全学会 英文論文編集委員会

(一社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計 計算ソフト検討小委員会 委員長

(一社)交通工学研究会 日本型道路交通安全監査 委員

(一社)交通工学研究会 駐車場地域ルール検討委員会 委員

警察庁科学警察研究所 特別研究員

警視庁交通部 観光バス駐車対策分科会 会長

東京都都市整備局 歩行者中心の道路空間の活用マニュアル検討会 委員

東京都都市整備局 駐車場条例検討委員会 委員

千葉県 大規模小売店舗立地審議会 専門委員

港区 駐車場地域ルール策定協議会 会長

港区 地域交通ネットワークのあり方検討会

中央区 東京駅前地区駐車場地域ルール運営委員会 副会長

中央区 銀座地区交通環境改善協議会 委員

渋谷区 代々木駅周辺地区駐車場整備計画策定委員会 会長

渋谷区 代々木地区駐車場地域ルール策定委員会 会長

渋谷区 駐輪場配置計画検討会 会長

立川市交通対策課 立川駅ターミナル連絡会 会長

船橋市 交通ビッグデータ見える化協議会 副会長

佐倉市 地域公共交通会議 副会長

大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会 会長

■佐田達典 教授

(公社)日本測量協会 理事

(公社)土木学会 土木情報学委員会 インドアポジショニング技術研究小委員会 副委員長

(公社)日本測量協会 電子基準点を利用したリアルタイム測位推進協議会 会長

(公社)日本測量協会 応用測量論文集編集委員会 委員長

(公社)日本測量協会 測量近代化研究会 委員長

(一社)全国土木施工管理技士会連合会企画事業委員会 委員長

(一財)日本建設情報総合センター 理事

(一財)道路管理センター 評議員

国土交通省国土地理院 測量行政懇談会 副委員長

国土交通省国土地理院 PRISM 運営委員会 委員長

国土交通省国土地理院 総合評価委員会 委員長

国土交通省大臣官房技術調査課 建設技術研究開発評価委員会 委員

国土交通省総合政策局 地域づくり・建設施工に係る企画競争有識者委員会 委員

国土交通省関東地方整備局企画部施工企画課 新技術活用評価会議 委員

QBIC～QSS連携（地図分野）準天頂衛星利活用推進会議 座長

QBIC～QSS連携（土木・建設分野）準天頂衛星利活用推進会議 有識者

高精度衛星測位サービス利用促進協議会 アドバイザー

■下川澄雄 教授

(公社)日本道路協会 第34回日本道路会議 論文・企画委員会 委員

(公財)国際交通安全学会 日本のラウンドアバウトデータベースと事例集の整理研究会 委員

(一社)交通工学研究会 技術顧問

(一社)交通工学研究会 査読委員

(一社)交通工学研究会 JSTE シンポジウム運営小委員会副委員長

(一社)交通工学研究会 基幹研究 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ 委員長

(一社)交通工学研究会 ラウンドアバウト技術指針出版小委員会 委員

(一社)交通工学研究会 名古屋市ガイドウェイバスのバス専用道化検討会 委員

国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所 静岡県災害時交通マネジメント検討会 委員

静岡県 美しいふじのくにインフラビジョン推進会議 委員

静岡県 社会資本総合整備計画等評価アドバイザー

静岡県 ラウンドアバウト検討委員会 委員

静岡県・浜松市・湖西市 浜名湖地域振興・減災協議会 会長

(特非)浜名湖地域舟運都市構想研究所 理事・顧問

(特非)浜名湖地域舟運都市構想研究所 浜名湖地域舟運都市構想研究会 顧問

■轟 朝幸 教授

(公社)土木学会 土木学会論文集編集委員 D3分冊編集小委員会委員長

(公社)土木学会 技術推進機構 技術者教育プログラム審査委員会 委員

(一社)国土政策研究会 会誌編集委員会 委員

(一社)交通工学研究会 出版委員会 委員長

国土交通省 交通政策審議会航空分科会 臨時委員

国土交通省航空局 無人航空機の有人地帯における目視外飛行(レベル4)実現に向けた検討小委員会 委員

国土交通省航空局 空港受入環境高度化支援ウィズコロナ補助金有識者委員会 委員

国土交通省航空局 空港分野におけるCO₂削減に関する検討会 委員

国土交通省関東運輸局 地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会 委員

東京都 東京都における地域公共交通の在り方検討会 座長

千葉県 総合計画策定懇談会 副座長

千葉県 県土整備公共事業評価審議会 委員長

千葉県 入札監視委員会 委員長

千葉県 建設工事総合評価 委員

千葉県 成田空港の離着陸制限(カーフェュー)の弾力的運用に関する検証小委員会 委員長

沖縄県 下地島空港及び周辺用地の利活用促進事業検討委員会 委員

葛飾区 都市計画マスタープラン策定委員会 委員

葛飾区 自転車活用推進計画検討委員会 委員長

葛飾区 入札監視等委員会 委員長

青梅市 公共交通活性化協議会 委員(議長)

千葉市 新基本計画審議会 会長

千葉市 地域公共交通活性化協議会 委員長

鎌ヶ谷市 企業誘致推進協議会 委員

松戸市 建設工事総合評価 委員

松戸市 松戸駅周辺まちづくり委員会 委員

船橋市 地域公共交通活性化協議会 委員

富里市 地域公共交通活性化協議会 副会長

山武市 地域公共交通活性化協議会 副会長

成田市 地域公共交通網形成協議会 副会長

木更津市 地域公共交通活性化協議会 会長

大網白里町 地域公共交通活性化協議会 会長

八街市 地域公共交通協議会 副会長

旭市 地域公共交通協議会 委員

館山市・南房総市 南房総・館山公共交通合同協議会 委員

館山市 地域公共交通会議 委員(議長)

栄町 公共交通会議 委員

三郷市 地域公共交通活性化協議会 委員

八潮市 地域公共交通活性化協議会 会長

成田空港地域振興連絡協議会 成田空港地域共生・共栄会議 副会長

熊本空港株式会社 第三者モニタリング委員会 委員

いすみ鉄道株式会社 全国いすみ鉄道支店長制度 日大交通システム工学科支店長

■福田 敦 教授

(公社)土木学会 今後の海外インフラ展開に向けた変革のあり方検討会 副幹事長

(公社)土木学会 関東支部 幹事

(公財)国際交通安全学会 顧問

(一社)交通工学研究会 理事

(一社)計画交通研究会 監事

(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 監事

(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 認定・事業委員会 委員

(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 国際委員会 委員

(一社)日本私立大学連盟 FD推進ワークショップ運営委員会 委員

(一社)海外運輸協力協会 アドバイザー

EASTS-Japan 理事

日本システム・ダイナミックス学会 顧問

日本環境共生学会 副会長・関東支部長・理事

Asia Transportation Research Society, Honorable Advisor

(独法)国際協力機構 開発途上国における交通安全プロジェクト 課題別支援委員会 委員

(独法)国際協力機構 開発途上国における都市鉄道プロジェクト 課題別支援委員会 委員

(独法)国際協力機構 タイ国「バンコク首都圏都市鉄道新マスタープラン策定能力向上プロジェクト」需要予測ワーキンググループ(WG)

国土交通省 国際建設関連業務に係る企画競争有識者委員会 委員長

国土交通省 日本アセアン道路交通安全共同調査 アドバイザー

千葉市 都市計画審議会 委員

千葉市 高度地区アドバイザー

千葉市 (仮)都市計画道路 磯辺茂呂町線(園生町)みちづくり協議会 座長

八千代市 都市計画審議会 委員

■藤井敬宏 教授

(公財)日本交通管理技術協会 自転車安全整備技能検定審議会 委員

国土交通省関東運輸局 千葉県バリアフリーネットワーク会議 座長

国土交通省中部運輸局 地域交通マネージャー

品川区 庁舎機能検討委員会 副会長

港区 南青山二丁目公共施設選考委員会 委員

港区 バリアフリー基本構想推進協議会 会長

港区 放置自転車対策業務プロポーザル審査委員会 委員長

東久留米市 地域公共交通会議 会長

武蔵村山市 地域公共交通会議 会長

我孫子市 総合計画審議会 会長

我孫子市 地域公共交通協議会 委員

我孫子市 都市計画審議会 会長

市川市 公共交通協議会バス交通分科会 委員

市川市 福祉有償運送運営協議会 委員

市川市 公共交通協議会 会長

市川市 公共交通調査 専門員

市川市 総合計画審議会 会長

市川市 都市計画審議会 副会長

市原市 バリアフリー推進協議会 会長

市原市 公共交通地域協議会 アドバイザー

市原市 総合計画審議会 会長

市原市 総合評価落札方式による入札評価 委員

市原市 地域公共交通会議 座長

市原市 都市再生協議会 委員

市原市 福祉有償運送運営協議会 委員

浦安市 福祉有償運送運営協議会 委員

柏市 交通政策審議会 会長

柏市 地域公共交通部会 部会長

君津市 バリアフリー基本構想推進協議会 会長

君津市 国土強靱化地域計画アクションプラン編策定アドバイザー アドバイザー

君津市 地域公共交通アドバイザー アドバイザー

君津市 地域公共交通会議 委員

匝瑳市 地域公共交通会議 委員

千葉市 バリアフリー推進協議会 会長

東金市 都市計画審議会 委員

東金市 総合交通計画策定協議会 委員

東金市 第3次総合交通計画策定調査支援業務委託事業者評価委員会 委員

流山市 地域公共交通活性化協議会 副会長

富津市 地域公共交通会議 委員

船橋市 地球温暖化協議会 会長

船橋市 地球環境審議会 委員

船橋市 地球環境審議会地球環境部会 部会長

船橋市 都市計画審議会 委員

茂原市地域公共交通会議 委員

八千代市 総合計画審議会 委員

八千代市 都市計画マスタープラン策定検討委員会 副会長

八千代市 公共交通会議 副会長

九十九里町 地域公共交通会議 委員

伊勢原市 地域公共交通会議 会長

静岡県 未来創造まちづくり構想会議 委員

伊豆の国市 地域公共交通会議 委員

伊東市 伊東駅前広場整備検討委員会 会長

伊東市 地域公共交通活性化協議会 委員

下田市 地域公共交通会議 委員

下田市 地域公共交通計画策定業務委託企画提案審査委員会 委員

裾野市 総合計画等評価委員会 会長

裾野市 地域公共交通活性化協議会 委員

裾野市 都市計画審議会 会長

富士宮市 地域公共交通会議 委員

富士宮市 都市計画審議会 会長

三島市 地域公共交通網形成協議会 委員

JR久留里線活性化協議会 アドバイザー

JR久留里線沿線の総合的な交通体系に関する検討会 座長

■谷口 望 教授

(公社)土木学会 複合構造物委員会 委員

(公社)土木学会 複合構造委員会 土木学会論文集特集号編集小委員会 委員

(公社)土木学会 複合構造委員会 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響研究小委員会(2期) 幹事

(公社)土木学会 複合構造委員会 複合構造標準示方書改訂小委員会 幹事

(公社)土木学会 鋼構造委員会 鋼・合成構造標準示方書総則・設計編小委員会 幹事

(公社)土木学会 応用力学委員会 委員

(公社)土木学会 応用力学委員会 応用力学論文集編集小委員会 委員

(公社)土木学会 土木技術者資格委員会 特別上級・上級土木技術者資格小委員会 設計部門 幹事

(公社)土木学会 土木技術者資格委員会 1級土木技術者資格小委員会 鋼およびコンクリート分野 幹事

(公社)土木学会 土木技術者資格委員会 2級土木技術者資格小委員会 委員

(公社)土木学会 関西支部 安価で確実な鋼橋の長寿命化対策に関する調査研究委員会 委員

鋼橋技術研究会 技術会員

鋼橋技術研究会 鋼橋の劣化機構検討部会 幹事

鋼橋技術研究会 鋼橋の性能設計手法に関する検討部会 部会長

■峯岸邦夫 教授

(公社)地盤工学会 TC202 Transportation Geotechnics 国内委員会 委員

(公社)地盤工学会 関東支部 評議員

(公社)地盤工学会 関東支部 千葉県グループ 幹事

(公社)地盤工学会 ジオシンセティックス工学委員会

(公社)土木学会 技術者教育プログラム審査委員会 幹事

(公社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 キッズプロジェクト検討小委員会 委員

(公社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 キッズプロジェクト検討小委員会 幹事

(公社)土木学会 技術功労賞選考委員会 委員長

(公社)土木学会 表彰委員会 委員

(一財)日本技術者教育認定機構 基準委員会 委員

(一財)日本技術者教育認定機構 基準総合調整委員会 委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部 幹事

国際ジオシンセティックス学会日本支部 新技術委員会委

委員長

国際ジオシンセティックス学会日本支部 行事委員会

国際ジオシンセティックス学会日本支部 論文集編集委員会

国際ジオシンセティックス学会日本支部 表彰委員会 副委員長

国土交通省関東地方整備局東京国道事務所 総合評価審査分科会 委員

国土交通省関東地方整備局東京外かく環状国道事務所 総合評価審査分科会 委員

船橋市 一般競争入札【総合評価型】 学識経験者

鋸南町 トンネル長寿命化修繕計画策定事業 学識経験者

■石坂哲宏 准教授

(公社)土木学会 関東支部 企画部会 幹事

(公社)土木学会 国際学术交流基金管理委員会 委員

(公社)土木学会 土木計画学委員会学術小委員会 委員

(一社)交通工学研究会 事業委員会 委員

(一社)交通工学研究会 タスクフォース2 委員

(一社)交通工学研究会 JSTE シンポジウム運営小委員会 委員

(一社)計画・交通研究会 幹事会 幹事

日本システム・ダイナミクス学会 理事

Eastern Asia Society for Transportation Studies, International Scientific Committee

独立行政法人都市再生機構 工事中交通マネジメント研究ワーキング 委員

日本自動車連盟(JAF)千葉支部 交通安全実行委員会 委員

久喜市 地域公共交通会議 委員

■伊東英幸 准教授

(公社)土木学会 関東支部 企画部会 幹事

環境アセスメント学会 理事

環境アセスメント学会 企画委員会 委員

環境アセスメント学会 企画委員会 アセス検定WG 委員(リーダー)

環境アセスメント学会 企画委員会 小冊子WG 委員

環境アセスメント学会 学会設立20周年記念事業特別委員会記念誌制作WG 委員

環境アセスメント学会 学術委員会 委員

環境アセスメント学会 生態系研究部会 委員

環境アセスメント学会 若手研究会 委員

日本環境共生学会 表彰委員会 幹事

日本環境共生学会 学会賞選考委員会 委員

日本環境共生学会 タスクフォース 委員

日本システム・ダイナミクス学会 理事(事務局長)

International Journal of GEOMATE (Geotechnique, Construction Materials and Environment), Review Board Member

千葉県 環境審議会 委員

山梨県 環境影響評価等技術審議会 委員

山梨県 太陽光条例環境及び景観に及ぼす影響の評価等アドバイザー 委員

成田市 地域公共交通網形成協議会 委員

成田市 地域公共交通網形成協議会交通事業分科会 会長

柏市 交通政策審議会 委員

柏市 地域公共交通部会 委員

富里市 地域公共交通会議 委員

富里市 地域公共交通計画策定支援業務委託事業者選定委員会 委員

横芝光町 地域公共交通会議 委員

鎌ヶ谷市 緑の基本計画検討委員会 副委員長

名古屋市 なごや生物多様性保全活動協議会 委員

■江守 央 准教授

(公社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 キッズプロジェクト検討小委員会 委員長

(一社)日本福祉のまちづくり学会 副事務局長

(一社)日本福祉のまちづくり学会 代議員および事務局長

(一社)日本福祉のまちづくり学会 文化財・世界遺産のアクセシビリティ特別研究委員会研究委員会 委員

(一社)日本福祉のまちづくり学会 代議員

(一社)日本福祉のまちづくり学会 国際委員会 委員長

豊島区 バリアフリー推進協議会 副会長

渋谷区 バリアフリー推進協議会 副会長および区民部会長

杉並区 バリアフリー推進連絡会 学識経験委員

大田区 移動円滑化推進協議会 副会長

三鷹市 バリアフリーのまちづくり推進協議会 副会長

東久留米市 都市計画自転車駐車場整備事業 事業者審査委員会 委員

横浜市 バリアフリー検討協議会 港北区部会 委員長

鎌ヶ谷市 福祉有償運送運営協議会 会長

八千代市 福祉有償運送運営協議会 会長

■齊藤準平 准教授

(公社)土木学会 関東支部 広報部会 副主査

(公社)土木学会 関東支部 運営幹事会 幹事

(公社)土木学会 総務部会 技術功労賞選考委員会 幹事長

(公社)土木学会 全国大会実行委員会 総務部会

■兵頭 知 助教

(公社)土木学会 総務部門 全国大会 第IV部門委員

(一社)交通工学研究会 自主研究 交通事故リスクマネジメントに関する研究

(一社)交通工学研究会 JSTE シンポジウム運営小委員会 幹事

(一社)交通工学研究会 千葉国道 交通安全診断 委員

八街市 地域公共交通協議会 委員

■山中光一 助教

(公社)地盤工学会 関東支部 千葉県グループ 幹事

(公社)地盤工学会 関東支部 支部発表会グループ 県連絡委員

(公社)地盤工学会 TC202 Transportation Geotechnics 国内委員会 幹事

(公社)地盤工学会 関東支部 会員サービスグループリーダー 幹事

(公社)地盤工学会 公益出版部会 部員

(公社)地盤工学会 公益出版部 出版事業グループ 委員

(公社)土木学会 関東支部 学術研究部会 幹事

(公社)土木学会 舗装工学委員会 舗装材料小委員会 委員

(公社)土木学会 舗装工学委員会 舗装材料小委員会 路床路盤分科会 委員

(公社)土木学会 土木学会論文集 E1分冊編集小委員会 委員

(公社)土木学会 令和3年度全国大会実行委員会 学術部会 統括班 副班長

ジオシンセティックス学会日本支部 ジオシンセティックス技術情報誌 編集委員会 委員

(特非)舗装診断研究会 舗装診断装置検証委員会 委員

(特非)舗装診断研究会 舗装診断装置検証委員会 小型FWD 検証分科会

■吉岡慶祐 助教

(公財)国際交通安全学会 2107B プロジェクト「電動モビ

リティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究」特別研究員

(公財)国際交通安全学会 2107B プロジェクト「日本のラウンドアバウトデータベースと事例集の整備」特別研究員

(一社)交通工学研究会 資格委員会 委員

(一社)交通工学研究会 ラウンドアバウト技術指針出版小委員会 委員兼幹事

(一社)交通工学研究会 編集委員会 委員

(一社)交通工学研究会 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ 委員兼幹事

(一社)交通工学研究会 研究委員会 委員

(一社)交通工学研究会 研究企画小委員会 委員

学外学術活動 2021. 4. 1～2022. 3. 31

■小早川 悟 教授

司会：第63回土木計画学研究発表会「道路と駐車場計画」／(公社)土木学会土木計画学委員会／オンライン開催 2021.6.6

講師：令和3年度道路整備施策研修「物流と道路交通施策」／(一社)全国建設研修センター／全国建設研修センター 2021.6.17

講師：令和3年度道路マネジメント研修「物流と道路マネジメント」／国土交通大学校／オンライン開催 2021.10.20

講師：2021年度JIC/JSCA第1回オンライン研修会「自転車走行空間と自転車駐車場及びシェアサイクルとマイクロモビリティの展望」／(一社)日本シェアサイクル協会、(一社)自転車駐車場工業会／オンライン開催 2021.11.17

講師：JICA 課題別研修／都市交通総合グループ1「駐車マネジメント」／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2021.12.16

講師：令和4年新春駐車場研修会「ウォーカービリティを考慮したまちづくりと駐車場整備の今後」／(一社)全日本駐車協会／オンライン開催 2022.2.4

講師：JICA 課題別研修／都市交通総合グループ2「駐車マネジメント」／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2022.2.14

■佐田達典 教授

座長：GPS/GNSS シンポジウム2021研究発表会／測位航法学会／オンライン開催 2021.10.29

(一社)交通工学研究会 平面交差の計画・設計・制御の研究グループ 応用編分科会 委員

■菊池浩紀 助手

日本システム・ダイナミクス学会 幹事

日本環境共生学会 学術・編集委員会 幹事

日本環境共生学会 第24回日本環境共生学会学術大会 実行委員

日本環境共生学会 タスクフォース メンバー

■田部井優也 助手

(公社)土木学会 エネルギー委員会 スマートシェアリングシティ研究小委員会 委員兼幹事

新宿区 自転車等駐輪場設置及び管理運営事業者選定委員会 委員

■下川澄雄 教授

講師：日本の道路ネットワークの現状と課題／三井共同建設コンサルタント(株)／オンライン開催 2021.10.14

司会：第34回日本道路会議「道の駅・交通結節点，防災・観光支援(1)」／(公財)日本道路協会／都市センターホテル 2021.11.5

オーガナイザー：第3回JSTEシンポジウム「ボトルネックの交通現象と交通容量に関する既往知見の収集整理からわかってきたこと」／(一社)交通工学研究会／松山市総合コミュニティセンター 2021.12.2

■轟 朝幸 教授

パネリスト：成田青年会議所創立50周年記念シンポジウム「すべての道はNARITAへ通ず」／(一社)成田青年会議所／オンライン開催 2021.10.2

講師：航空政策研究会月例会「空港の災害対策・気候変動下の空港」／航空政策研究会／慶應義塾大学三田キャンパス 2022.3.14

■福田 敦 教授

Invited Speaker：The 7th KKU International Engineering Conference (KKU-IENC 2021) entitled on “Digital Transformation in Japan” / Faculty of Engineering, Khon Kaen University, Khon Kaen, Thailand / Khon Kaen (On line) 2021.5.5

Invited Speaker：The 2nd APEC Workshop on Exploring Co-Benefit Opportunities for Renewable Energy and Energy Efficiency Projects in the APEC Region entitled on Mainstreaming Transport Co-benefit Approach:

A Guide to Evaluating Transport Projects / APEC, National Energy Technology Center (ENTEC) Thailand / Bangkok (On line) 2021.7.19

モデレータ：令和3年度オンラインFD推進ワークショップ／(一社)私立大学連盟／オンライン開催 2021.8.6

コーディネーター：令和3年度土木学会全国大会／全体討論会「新しい生活様式に対応し、市民と協働したインフラづくりに向けて」／(公社)土木学会／オンライン開催 2021.9.8

講師：JICA 課題別研修／総合都市交通コース1「発展途上国における交通安全対策(タイの都市における事例)」／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2021.12.9

モデレータ：The 14th Asian Transportation Research Society Annual Conference / Session 1 “Transportation for a Better Life: Future Potential of Transportation and Urban Model Post Covid Era” / ATRANS / オンライン開催 2021.12.18

モデレータ：Joint Symposium under SATREPS Projects for Realizing Low-carbon Society / Panel Discussion; Challenges and Future Prospects for Both Projects on “M2Smart” – “SmarTran4T4” / Projects of JICA / JST Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development (SATREPS) / オンライン開催 2022.1.25

講師：JICA 課題別研修／都市公共交通(鉄道、MRT、バスなど)“Sustainable Transportation System in Asian cities” / (独法)国際協力機構／オンライン開催 2022.1.26

講師：JICA 課題別研修／総合都市交通コース2「発展途上国における交通安全対策(タイの都市における事例)」／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2022.2.8

モデレータ・講演：The 3rd Experts Group Meeting on ASEAN-Japan Road Traffic Safety Joint Study / 国土交通省／オンライン開催 2022.3.8-9

講師：JICA ニカラグア国別研修／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2022.3.23, 30

■藤井敬宏 教授

講師：シニアの外出を支援する交通手段の確保に向けて／いちほら市民大学環境コース／サンプラザ市原11F多目的室 2021.6.22

講演：ユニバーサルデザインタクシーを活用した介護タクシーの運用改善策の検討―千葉県を例として―／千葉県運輸支局バリアフリーネットワーク会議／日本大学理工学部船橋校舎 2021.12.3

■谷口 望 教授

講師：環境社会基盤工学専攻特別講義[B]／鉄道用鋼・複合構造に関する講義／岐阜大学／岐阜大学工学部 A530 2021.10.28

■石坂哲宏 准教授

パネリスト：第3回JSTEシンポジウム「事例に学ぶ複合都市再生事業の円滑な進め方」／(一社)交通工学研究会／愛媛県松山市総合コミュニティセンター 2021.12.2

講師：日本自動車連盟関東支部「交通システム工学の視点から見る交通安全対策について」／(一社)日本自動車連盟(JAF)／オンライン開催 2021.3.9

■兵頭 知 助教

座長：第49回関東支部技術研究発表会(交通工学)／(公社)土木学会関東支部／オンライン開催 2022.3.8

座長：第76回土木学会年次学術講演会(第IV部門；交通調査)／(公社)土木学会／オンライン開催 2021.9.9

■山中光一 助教

司会：第56回地盤工学研究発表会／DS-1「交通インフラの技術向上に地盤工学が果たすべき役割と貢献」／(公社)地盤工学会(TC202国内委員会)／オンライン開催 2021.7.15

座長：第76回年土木学会次学術講演会(締固め)／(公社)土木学会／オンライン開催 2021.9.9

座長：第18回地盤工学会関東支部発表会(GeoKanto2021)「構造1」／(公社)地盤工学会関東支部／オンライン開催 2021.10.22

座長：第49回関東支部技術研究発表会「基礎および地下構造物(1)」／(公社)土木学会関東支部／オンライン開催 2022.3.8

■吉岡慶祐 助教

パネリスト：第3回JSTEシンポジウム「日本のラウンドアバウト～この10年の成長とこれから～」／(一社)交通工学研究会／松山市総合コミュニティセンター 2021.12.3

座長：第64回土木計画学研究発表会「ラウンドアバウトの新たな展開に向けて」／(公社)土木学会／オンライン開催 2021.12.4

座長：第49回関東支部技術研究発表会「測量・リモートセンシング・GIS、計測・情報処理」／(公社)土木学会関東支部／オンライン開催 2022.3.9

■菊池浩紀 助手

講師：JICA ニカラグア国別研修／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2022.3.23, 30

外部研究資金の受入状況		2021. 4. 1～2022. 3. 31
助成金名・委託元など（研究期間）	研究課題	教員名
清水建設株式会社（2021.11.15～2022.3.31） 館内貨物発生量に着目した荷さばき施設規模計画と計画評価の方法論に関する研究	… 小早川 悟（代表）、田部井優也	
三井住建道路株式会社（2021.5.1～2022.3.31） 情報化施工に関する研究	…………… 佐田達典（代表）	
三井住建道路株式会社（2021.4.5～2022.3.31） 道路マネジメントに関する研究	…………… 下川澄雄（代表）	
三井住建道路株式会社（2021.4.1～2022.3.31） 道路舗装に関する研究	…………… 峯岸邦夫（代表）	
日鉄エンジニアリング株式会社（2021.5.1～2022.3.31） 非公開	…………… 峯岸邦夫（代表）	
ENEOSテクノマテリアル（2021.7.20～2022.3.31） 強化不織布に関する研究（2件）	…………… 峯岸邦夫（代表）	
朝日航洋株式会社（2022.2.1～2022.3.31） MMSの精度検証	…………… 佐田達典（代表）	
スカイリンクテクノロジー（2021.10.1～2022.3.31） 高速VTOL機のニーズに関する研究	…………… 轟 朝幸（代表）、兵頭知	
国立研究開発法人科学技術振興機構（2021.4.1～2022.9.30） マルチモーダル地域交通状況のセンシング、ネットワークングとビッグデータ解析に基づくエネルギー低炭素社会実現を目指した新興国におけるスマートシティの構築	…………… 福田 敦（代表）、小早川 悟、石坂哲宏、吉岡慶祐、菊池浩紀	
浜名湖水際都市創造研究会（2021.12.14～2022.3.31） 浜名湖地域における水辺のまちづくりに関する研究	…………… 下川澄雄（代表）	
文部科学省科学研究費 基盤研究（C）（2021.4.1～2024.3.31） 立地適正化計画を考慮した駐車場配置適正化のための評価方法に関する研究	…………… 小早川 悟（代表）、田部井優也	
文部科学省科学研究費 基盤研究（C）（2019.4.1～2023.3.31） 我が国の道路事業における動物の事故対策とその効果の推計	…………… 伊東英幸（代表）	
文部科学省科学研究費 基盤研究（C）（一般）（2021.4.1～2024.3.31） インド・タイの混合交通の錯綜危険性を表現するモデルの実証的検証	…………… 石坂哲宏（代表）	
文部科学省科学研究費 若手研究（2019.6.1～2022.3.31） ラウンドアバウト幾何構造の安全性能評価ツールの開発	…………… 吉岡慶祐（代表）	
文部科学省科学研究費 若手研究（2021.4.1～2024.3.31） Link & Place理論に基づく街路分類別交通事故リスク評価法の開発	…………… 兵頭 知（代表）	
文部科学省科学研究費 若手研究（2020.4.1～2023.3.31） 路床・路盤材の性能評価試験の精度と各関係性に関する基礎的研究	…………… 山中光一（代表）	
理工学部研究助成金（2021.4.1～2022.3.31） 毛細血管造影剤を用いた3次元X線CTによる有害ひび割れの検出	…………… 齊藤準平（代表）	

令和3年度理工学部科学研究費（若手研究）獲得支援研究助成金（2021.7.12～2022.3.31）
人口減少下における集約型都市の実現に至るまでの戦略的アプローチの構築に関する研究 …………… 菊池浩紀（代表）

三井住友海上福祉財団研究助成（2021.11.1～2022.10.31）
駐車場出入口周辺の安全性確保に関する研究～自動運転車社会を見据えて～ …………… 田部井優也（代表）

日本デジタル道路地図協会研究助成（2021.7.29～2022.3.31）
DRMを活用した沿道施設出入口の安全性の分析 …………… 田部井優也（代表）

大手町・丸の内・有楽町地区駐車環境対策協議会フェローシップ（2021.7.1～2022.3.31）
自動運転車社会を見据えた駐車場出入口周辺の交通円滑化に関する研究 …………… 田部井優也（代表）

令和3年度 学生の受賞等 2021. 4. 1～2022. 3. 31

主催者／賞などの内容（受賞年月）

受賞者氏名（研究室）

日本システム・ダイナミクス学会／優秀講演者賞／
財務評価モデルによるバンコク都市鉄道の運賃改定の検討（2021.6） …………… 高野智宏（交通システム研究室）

（公社）日本測量協会／令和3年度応用測量論文集「論文奨励賞」／
位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる側壁の円盤層厚検出精度に関する研究（2021.9）
…………… 笹野拓海（空間情報研究室）

（公社）日本測量協会／令和3年度応用測量論文集「論文奨励賞」／
歩行移動測位を対象とした準天頂衛星システムと他のGNSSの併用における測位精度の検証（2021.9）
…………… 照井理仁（空間情報研究室）

（公社）土木学会／第46回土木情報学シンポジウム「優秀発表賞」／
街路移動体測位におけるSNR値の差分を用いた車両挙動別の衛星除外効果の検証（2021.9）
…………… 宮澤 隼（空間情報研究室）

（公社）土木学会／令和3年度全国大会第76回年次学術講演会「優秀講演者」／
右折車のギャップアクセプタンス挙動と右折交通容量の分析（2021.9） …………… 岩澤和輝（道路マネジメント研究室）

（公社）土木学会／令和3年度全国大会第76回年次学術講演会「優秀講演者」／
移動体測位における天空図を用いた衛星除外方法による精度向上効果の分析（2021.9） …… 大手駿平（空間情報研究室）

（一社）測位航法学会／GPS/GNSSシンポジウム2021研究発表会「研究奨励賞」／
天空率を用いたセンチメートル級測位補強サービスCLASの性能評価（2021.10） …………… 山田 真（空間情報研究室）

日本大学理工学部／第65回理工学部学術講演会「優秀発表賞」／
MMS計測位置の違いが歩道形状の三次元点群データ検出精度へ及ぼす影響（2021.12） … 八木澤柊斗（空間情報研究室）

日本大学理工学部／第65回理工学部学術講演会「優秀発表賞」／
無信号交差点の交通容量の算出方法に関する米国との比較検証（2021.12） …………… 遊佐風子（道路マネジメント研究室）

14th ATRANS Annual Conference 2021 Young Researcher’s Forum 2021／The best paper and presentation award 2021／
Evaluating Impacts of Teleworking Policy in Jakarta Metropolitan Area by The Analysis of Activity Pattern（2021.12）
…………… ワユリナタ・リズキー（交通システム研究室）

14th ATRANS Annual Conference 2021 Young Researcher’s Forum 2021／The best paper and presentation award 2021／
Study on Improvement of Star Rating Approach to Extract Traffic Hazardous Location in Nakhon Ratchasima Province,
Thailand（2021.12） …………… 御代川 岳（交通システム研究室）

教室の動き

教室関連の動きを報告します。

■ 学科創設60周年提言

「10年後の君 (学科) へ ～今の私からの10の提言～」

学科創設60周年記念ワーキング
石坂哲宏、伊東英幸、江守 央、齊藤準平、山中光一

日本大学理工学部交通システム工学科は、1961（昭和36）年にわが国の経済成長を支える交通体系の整備という社会の要請に応え、交通技術者の育成と研究を目的に「交通工学科」という名称で創設され、2021年度で創設60周年を迎えることができました。

創設以来、学科を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、交通問題に加えて、環境・都市に関連するさまざまな社会問題への対応、情報通信技術を活用した新たな交通システムの構築など、新たな社会的な要請に対応した教育と研究を実施してきました。

このような社会的な背景を踏まえ、「10年後の君 (学科) へ ～今の私からの10の提言～」というタイトルで、現在から10年後の学科のあるべき姿を模索し創設60周年を記念し10の提言として取りまとめました。本稿では、その10の提言の概要を紹介するとともに、そのイメージをキーワードにしましたので、紹介します。

TRPT toward Next Decade

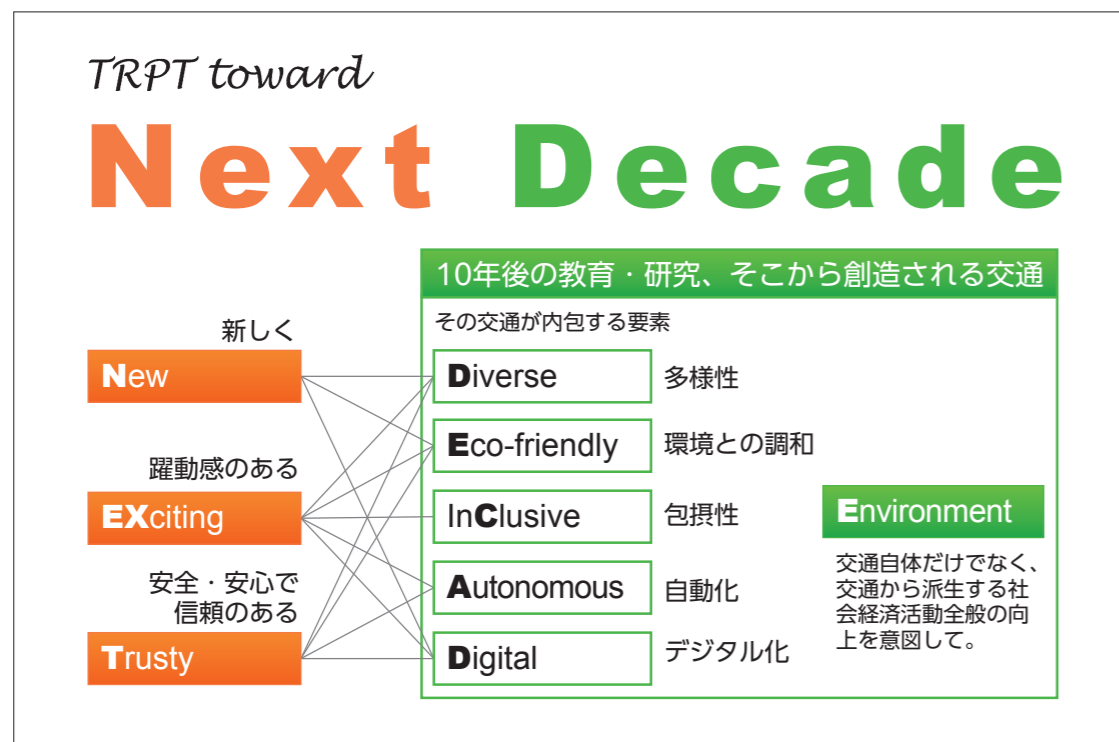
10の提言をイメージしてもらった英語の副題では、次の10年を表現する“Next Decade”の頭文字を、これからの交通社会をイメージする英語キーワードで構成しました。

最初の3つの言葉は、将来の、これまでと違った新しく、交通自体および交通からつながるさまざまな交流における活動を活性化するようなワクワク感を持ち、安全安心に移動できるという形容詞的なイメージで、“Decade”を修飾することを意図しています。

後半の6文字は、最後の“Environment”を表現する言葉として、多様で環境と調和し、包摂された中でさまざまな選択もでき、かつ、人と社会がさまざまな自動化されたデジタルツールを有効に活用できる環境をイメージしています。この環境は、10年後の教育や研究、そこから創造される交通だけでなく交通から派生する社会・経済活動全般の向上を意図しています。

10の提言「10年後の君 (学科) へ」

上記のイメージを具現化する、教育と研究分野から10の提言を取りまとめ、本学科の10年間の道しるべとなるように、ここに宣言したいと思います。



① 教育の在り方・学生像に関する提言

→ 提言1 未来志向型デザイン教育の実践

学生が能動的に交通に関する問題や課題を発見し、豊かな創造力を持って課題解決する能力を持った人材の育成に向けて、PBLやアクティブラーニングなどを取り入れた授業を数多く導入し、未来志向型キャリアデザイン教育の実践を目指す。

→ 提言2 世界をリードするグローバルな交通技術者の育成

世界をリードし、国内のみならず、グローバルに活躍できる交通技術者の育成に向けて、海外で通用する先進の交通技術や知識の習得に加え、英語によるコミュニケーションや文章作成能力の強化を目指す。

→ 提言3 最先端の交通システム工学を専門的に教育する大学院の充実化

大学院において、社会から求められる技術やニーズを満たす教育や研究を実施し、社会との連携を強化する。大学院の教育内容と学部との教育内容との連動性を強化し、さらなる充実を目指す。

→ 提言4 多様な人材が活躍できる分野としての交通の実現

交通分野において女性の活躍もできる場・教育環境の構築を継続的に行い、交通技術者として女性が長期にわたり生き生き活躍できる社会の創出を目指す。

→ 提言5 技術者として活躍できる分野の拡大（就職先の拡大）

スマートシティ等、ICT技術等を活かしたまちづくりが求められていることを踏まえ、現在の就職先だけでなく多様な分野でも活躍できる交通技術者の育成を行い就職先の拡大を目指す。

② 研究に関する提言・社会やOBOGとの連携に関する提言

→ 提言6 多様性に配慮した都市・地域交通

Maasに代表される多様で個人の選択制に配慮した交通システムを構築し、各個人に対応する移動・システムを対象としたモードで安全・安心を確保するための開発・研究を継続的に行う。またわが国における地域特性を配慮することも重要視し研究・開発を行う。

→ 提言7 SDGsの達成に向けた環境共生型グリーン交通社会の実現

SDGsの達成を意識しつつ、カーボンニュートラルや環境との共生を目指した各教員の研究・教育・社会活動を促

進させ、どのように社会貢献しているの見える化しつつ、グリーン交通社会の実現を目指す。

→ 提言8 情報の知能化によるスマートな交通社会のプロデュース

課題解決型および価値創造型の研究課題において、ビッグデータやさまざまな社会インフラを支える情報を活用し、スマートな交通社会をプロデュースする。

→ 提言9 省人化と自動化による交通インフラの超長寿命化技術の開発

学科教員がそれぞれの専門知識を活かして、交通インフラの超長寿命化技術に関する研究を行い、今後の土木従事者の減少やサステナブル社会を念頭に、省人化や自動化の技術を開発する。

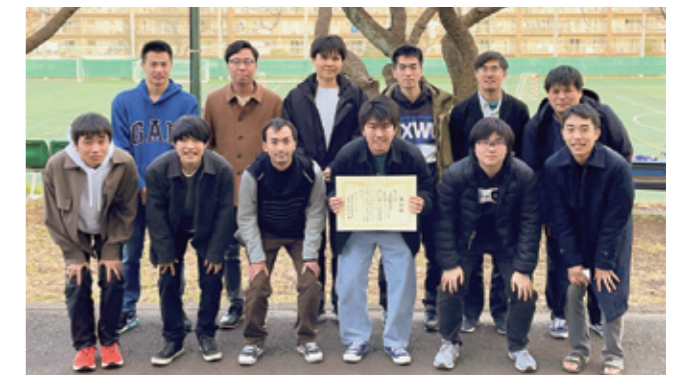
→ 提言10 産学官および他分野との融合型研究の実施

交通のバイオニアとして先進技術に関する研究が実施できるよう、大学地域を中心とした周辺地域の自治体および交通分野に限らない他分野と協同した分野横断型の研究の実施を目指す。

■ 受賞報告

第26回「土木系学生によるコンクリートカーナー大会」 総合3位（コンクリートカーナープロジェクト）

交通まちづくり工房のコンクリートカーナープロジェクトが、土木学会関東支部主催の第26回「土木系学生によるコンクリートカーナー大会」において、総合3位を受賞しました。大会の目的は、土木分野において最も一般的なコンクリートを用いてカーナーを製作し、ものづくりの楽しさを学生たちに実感してもらうことにあります。大会は、カーナーの製作過程や特徴をまとめた事前審査資料に基づく審査点と、実技点の総合点で、順位が決定されます。



受賞記念撮影



コンクリートカヌー完成時の記念撮影

材料の配合の実験的検討による軽量化と、高い精度の形状寸法のカヌーを作製することをテーマに取り組み、プロジェクトメンバーが協力し合い、材料実験やカヌー製作に勤しんだ努力が実ったものです。

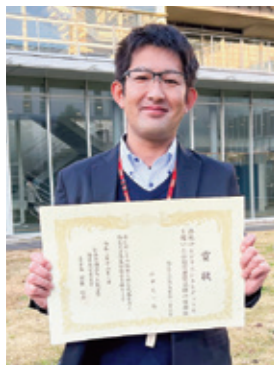
土木学会第76回年次学術講演会にて「優秀講演者賞」を受賞



交通システム工学専攻博士前期課程2年(当時)の岩澤和輝さんが、公益社団法人土木学会主催の第76回年次学術講演会において、優秀講演者に選ばれました。発表タイトルは、「右折車のギャップアクセプタンス挙動と右折交通容量の分析」です。信号の現示パターンなどが異なる複数

の交差点における調査から右折車の挙動を分析し、交通容量に与える影響を評価した研究です。

舗装工学論文集26巻「舗装工学論文奨励賞」を受賞



山中光一助教が土木学会論文集E1(舗装工学)Vol.77、No.2(舗装工学論文集第26巻)に掲載された「路床のレジリエントモデュラスを用いた小型FWD試験の順解析」にて舗装工学論文奨励賞を受賞しました。この研究は、舗装下における路床の評価で用いられるレジリエントモデュラス試験結果を用いた構造解析と小型FWD試験から得られるたわみに注目し、両手法から得られるたわみの整合性について検討を行ったものです。その結果、載荷時間を考慮した係数 β および接地圧分布を考慮した構造解析を行うことにより両試験から得られるたわみが一致することを明らかにしています。これにより、構造解析を行うだけで現

場試験と同等の路床の評価が行えることを示した論文です。

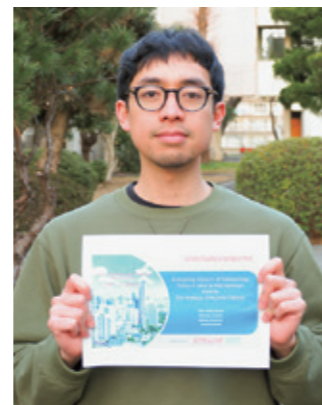
「日本環境共生学会奨励賞」を受賞

菊池浩紀助手が日本環境共生学会奨励賞を受賞しました。この賞は、将来性を有する環境共生に関する萌芽的な研究を評価するものです。受賞した論文タイトルは、「公共サービス水準維持の観点からみた集約型都市の実現可能性に関する研究—都市集約プロセスを考慮して」です。この論文は、人口減少下の縮退都市において立地適正化に基づいて都市を集約化していく過程に着目し、公共サービス水準、政策実施費用、都市環境の変化を、動学・空間的に分析する土地利用・交通モデルを構築し、集約型都市の実現に向けた政策を評価したものです。



14th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2021にて「The Best Paper and Presentation Award 2021」を受賞

交通システム工学専攻博士前期課程2年(当時)の御代川岳さんとワユリナタ・リズキーさんが、タイ・バンコクで開催された14th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2021でThe Best Paper and Presentation Award 2021を受賞しました。御代川さんが受賞した論文タイトルは「Study on Improvement of Star Rating Approach to Extract Traffic Hazardous Location in Nakhon Ratchasima Province, Thailand」です。この論文は、先進国で開発された交通事故分析によらず、道路施設の外形的な点検によって交通安全対策が必要な個所を選定する評価手法を、開発途上国のタイにおける交通事故にも対応できるように改良を行い、その有効性を検証したものです。また、ワユリナタさんが受賞した論文タイトルは「Evaluating Impacts of Teleworking Policy in Jakarta



Metropolitan Area by The Analysis of Activity Pattern」です。この論文は、インドネシア・ジャカルタを対象に活動パターンの変化を明示的に表現可能なアクティビティベースモデルを用いてテレワークに関する政策の実施による活動パターンの変化をシミュレーション評価したものです。

日本大学学生FD CHAmmit

中川光平(3年)

2021年10月28日(日)に、日本大学学生FD CHAmmitがオンラインにて開催されました。今年は「アフターコロナ~IT化と大学教育」というテーマで、全3セッションで構成されていました。各セッションでは、キャンパスライフのメリット・デメリット、アフターコロナの教育について話し合いを行い、最終セッションでは学部ごとに分かれ、話し合いで出た内容を学部提案書にまとめるといった内容でした。私は、AIを利用した質問アプリについて提案をし、学部提案書の内容として採用されました。各セッションではアイスブレイクの時間が設けられており、理工学部以外の学生と会話をすることができ、各学部でさまざまな考えを持っている学生がいるのだとあらためて感じました。



本会議を通して、他学部との交流や今後の教育に対する議論を行い、貴重な時間を過ごすことができました。この経験を今後にも活かしていきたいと考えています。

令和3年度キャリアアップミーティング

峯岸邦夫・伊東英幸・山中光一(3年生担任)

例年、学科主催で開催している「キャリアアップミーティング」が、2021年11月6日(土)に開催されました。昨年度に引き続き、コロナ禍ということもあり対面ではなくオンラインでの開催となりました。また本年度は、近年の



キャリアアップミーティング

就職活動時期が早まってきていることから、例年よりも1カ月早く開催しましたが、各分野で活躍する卒業生13名にご参加いただき、各分野の仕事内容についてご説明をいただきました。

本企画では、大きく4つのセッションに分け、ご参加いただいた卒業生より分野の説明をしていただいた後にブレイクアウトルームに分かれての質疑を行いました。参加した学生からは多くの質問が出ており、今後の就職活動を開始するきっかけになったかと思います。また、本企画の参加者は主に学部3年生と修士1年生ですが、学部1、2年生の参加も見られ、今後の自身のキャリアデザインにもつながったと感じました。

交通まちづくり工房活動報告

兵頭 知

今年も昨年度に引き続き、実フィールドでの活動が十分にはできない1年でしたが、制限がある中でも学生は可能な活動を見だし、最大限に取り組んでくれました。例えば、制限下でのフィールド調査、これまで調査してきたデータの解析、そのデータ解析を基にしたプレゼンテーションの作成(将来の住民への説明を意識して)、協力してくれる方とのZoomを利用したオンラインでのミーティングなどです。

全体の活動としては、本年度も引き続き第2回「工房サミット」を企画し、『持続可能な交通まちづくりに向けた未来へのアクション』と題して実施しました。具体的には、本年度の各プロジェクトの活動報告や、SDGsと工房活動における各グループや個人の未来のアクションなどについて議論しました。

令和3年度卒業研究発表会

下川澄雄、石坂哲宏、齊藤準平(4年生担任)

令和3年度の卒業研究発表会が2022年2月5日(土)に



発表中の様子



発表後の卒研究生と記念撮影

昨年度と同様、オンライン会議システム Zoom を利用して開催されました。本年度は110件（発表者119名）の発表があり、Zoom 会場には大学院生のほかに3年生、保護者など多くの参加者に来場いただきました。発表は1テーマあたり発表8分、質疑応答4分の合計12分で各自の研究内容について発表をしました。

本年度は全件 Zoom での発表でしたが、8分間の発表と4分間の質疑を、すべてリアルタイムで行う形式で実施しました。1年間、卒業研究の打ち合わせをオンラインで行ってきたため、学生たちはとくに戸惑うことなく、オンラインのリアルタイムでの発表を行うことができました。また、大きなトラブルもなく進行しました。最後に、運営に携わった先生や発表者・聴講者の皆さまにご協力いただきましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

令和3年度修士論文審査会

藤井敬宏（大学院担任）

大学院博士前期課程の修士論文審査会が、2022年2月22日（水）9時30分より船橋校舎1433教室にて、WEB併用型の審査会として開催されました。

発表は10分間にコンパクトにまとめられ、質疑応答も10分と限られてはいましたが、要点をまとめた回答は、大学院2年間の成長を感じる、学術的にもレベルの高い審査会でした。発表者18名全員が審査に合格、3月25日（金）に

修士（工学）の学位記が授与されました。修士論文の一覧は本号8ページをご覧ください。

本年度も、繰り返される COVID-19 オミクロンの拡散の波に翻弄され、キャンパスへの入構制限：研究室のコンピューター・ソフトをリモート活用したり、入構許可後も滞在時間が制限：継続型の実験が制限されたり、実験条件や模型サイズを変更したり、移動や外出自体が制限：観光や公共交通等の外出支援を検討する調査方法を抜本的に変更したりと、研究に専念できる環境を確保することが難しい中、とくに最終審査会の直近2カ月ごろから、COVID-19 に罹患した学生が複数名発症するなど、困難を乗り越えての研究活動でした。

このような環境下、大学院生間でお互いに励まし、協力し、サポートしながら、また留学生が4名もいる中、質の高い研究成果とともに、よく最終審査会を迎えてくれたと、担任として安堵しております。

そんな交通システム工学専攻の、修了生18名の今後の大いなる活躍を心より願うばかりです。



事務室からのお知らせ

熊田悦子・高梨美紀子（事務室）

春風の心地よい季節となりました。新入生は新生活への期待と緊張で複雑な心境でしょうか。また、在学学生は新学年に向けて意欲を燃やしていることと思います。

事務室では皆さんの学生生活のサポートを行っており、就職・進学・その他の資料も閲覧できるようになっております。また、公務員志望の方のために、参考書や問題集の貸し出しもしております。ぜひ活用してください。

事務室案内

事務取扱時間	月曜日～金曜日	9:30～13:00、14:00～16:00
場所	7号館2階7214室	

令和3年度 就職状況

4年生担任 下川澄雄、石坂哲宏、齊藤準平

令和3年度の学部卒業予定者は117名、大学院の博士前期課程修了予定者は18名、合計135名に対し、就職を希望しない学生（学部8名、大学院2名）を除くと、すべての学生の進路が決定しました。

本年度の就職活動は、例年と同様に3月1日より本格的に開始となりました。また、昨年度と同様にコロナ禍での就職活動となり、多くの企業ではオンラインによる会社説明会や選考面接が行われましたが、講義やゼミナール・卒業研究のミーティングがオンラインで行われているためか

大きな支障はなかったように感じられます。

内定状況は昨年度と同様に前半に内々定が多く出ていましたが、公務員試験の内定時期が民間企業と比べて遅いためか、公務員を志望する学生が減少しており、学部の業種別割合をみても一昨年度（21%）から半減しています。民間企業の就職先の業種別では、「建設業」が31%、高速道路会社や建設コンサルタントを含む「複合サービス業」が27%、鉄道・物流などの「運輸業」が11%と例年通り上位を占めています。

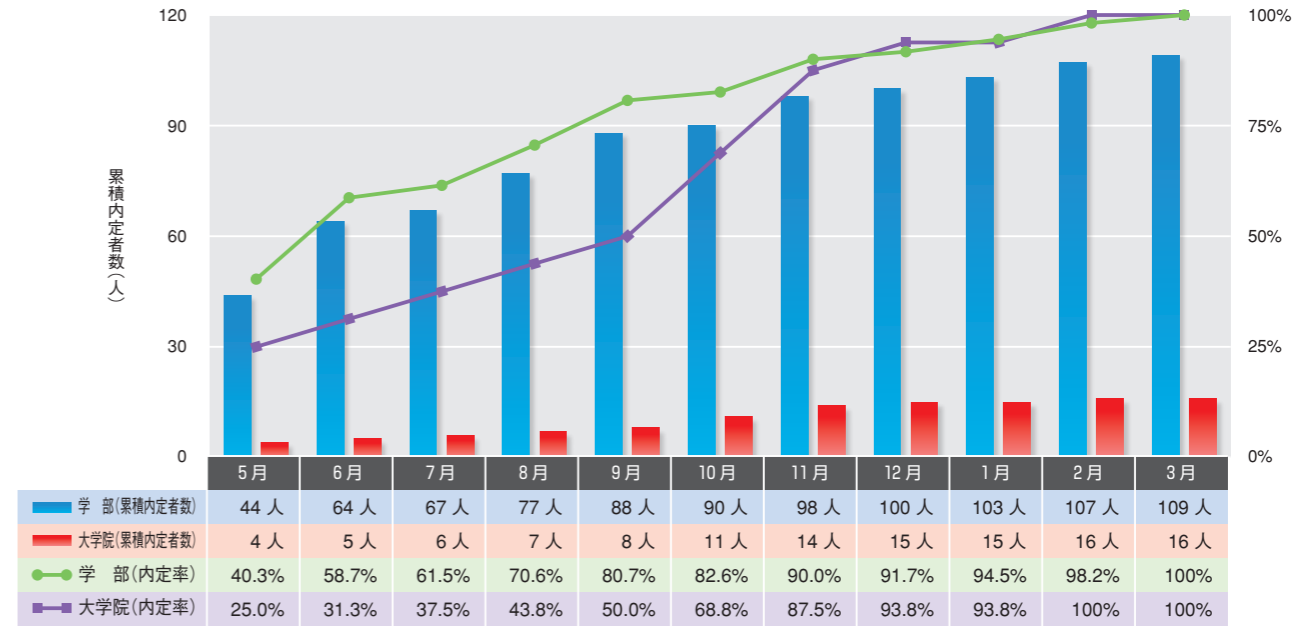


図-1 学部・大学院の内定者の推移

就職先業種別内定人数

内定先業種	大学院(人)	学部(人)
建設業	1	36
運輸業	1	13
国家公務員(含む独法)	1	3
地方公務員	2	6
大学院・進学・研究生	1	15
情報サービス業	1	1
複合サービス業	8	32
一般機械製造業	0	1
学校教育	1	1
通信業	0	1
その他	0	0
希望しない	2	8
合計	18	117

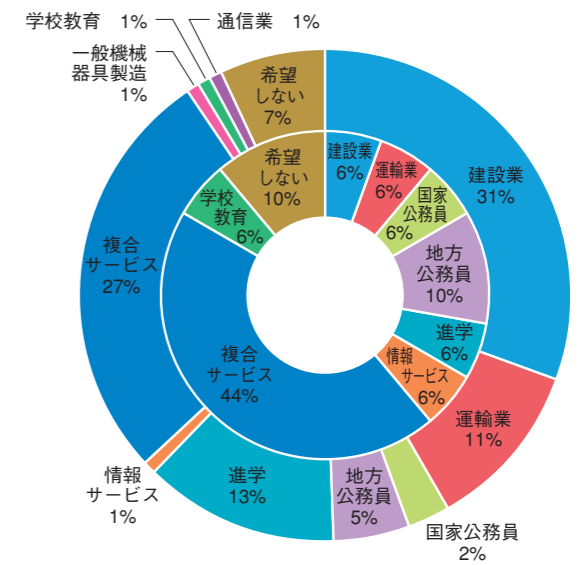


図-2 就職先業種別割合(内:大学院、外:学部)



海外での 鉄道プロジェクトの 推進と課題

福田 敦
教授

多くの日本人は、国際的に見て日本の鉄道技術は非常に高いと信じている。確かに、海外の高速鉄道が少なからず大きな事故を起こしているのに対して、日本の新幹線は約60年間の歴史の中で事故を起こしていない。このことが安全神話となり、日本の鉄道技術の高さに繋がっている。事実、英国で都市間高速列車（IET）182編成が日本のメーカー製であり、2021年には次期高速鉄道であるハイスピード2（HS2）の車両の製造・保守も受注した。また、米国では、ワシントン、ニューヨークをはじめ多くの都市で鉄道車両を納入しており、テキサスでの高速鉄道建設の計画も進んでいる。先進国だけではなく、タイでは先日開業したダークレッドラインに日本製車両が採用され、インドでは高速鉄道の建設が進んでおり、ドバイやパナマでもモノレール車両の納入の話が進む。

その一方で、インドネシアの高速鉄道の受注では中国に負け、台湾では台湾新幹線の次期車両の受注を逃すような事態も起きている。その原因として、価格の高さが指摘される。日本の鉄道技術は高いが、価格も高いというのは本当だろうか？

中国の高速鉄道は、日本の新幹線やEUの

高速鉄道のコピーで技術的には高くはないと言われてきた。しかし、中国の高速鉄道は年間約3,000kmのペースで増えており、総延長はほぼ4万kmに達している。日本の新幹線の総延長が約3,000kmであるから、毎年日本の新幹線の総延長に匹敵する路線が新たに建設されているわけで、これだけの実績があれば技術も相当高くなってきていることは想像に難くない。

このような中で、建設や運行だけではなく、計画から始まり、運転手の教育、車両の保守管理まで含めて鉄道ビジネスとしてパッケージとして技術を輸出しようという試みも行われている。私がかかわっているタイ、バンコク都市鉄道マスタープランの改訂でも、日本における都市鉄道を対象とする需要推計の方法を日本の技術として前面に出して移転しようとしている。東京首都圏の都市鉄道整備は、将来需要予測に基づいて交通政策審議会で検討され、提案する各路線の位置づけを明確にした上で、将来の鉄道路線ネットワークが提案される。タイでも鉄道を対象とする需要推計方法と合わせてこのような計画プロセスを

日本の技術と位置づけて導入を図ろうとしている。このような計画の方法だけではなく、技術や管理などにおけるさまざまな取り組みも見られる。インドのメトロでも、建設に当たり日本の企業がプロジェクトマネジメントを請け負ったり、日本企業が信号制御だけではなくチケットシステムや運行管理まで支援したりしている。また、外国製の車両であっても、主変換装置、主電動機、主変圧器、補助電源装置、車両情報システムなどの主要な車両用電機品を、日本のメーカーが受注している例も増えている。

これから、ますます海外でのインフラ整備を受注していく必要がある日本としては、「技術が高いが、費用も高く売れない」と言っても仕方がないので、真に日本の技術が優位である部分を見いだして、頑張っていく必要があるように思う。これらの現場で、交通の卒業生が活躍されている姿に触れる機会も多い。コロナ禍で海外渡航が難しい状況ではあるが、多くの卒業生が海外の鉄道事業で貢献されていることを、心強く思う次第である。



編 集 後 記

担任だった4年生が晴れて卒業しました。

コロナ禍の3、4年生の2年間、いろいろなイベントが開催できなかったこと、実験や演習そして卒業研究などでは不自由な思いをさせてしまったこと、多くの心残りがあります。自分の思ったとおりに進まないこともある、その中で目的地まで到達できるようにどのように頑張れるか、いかに工夫をして難局を乗り越えるか、そこに人間としての真価が問われると思います。困難にも負けなかったその底力をたずさえ、この先も切り開いていかれることを祈っています。（齊藤）

7号館（交通システム工学科が入っている建物）の耐震工事が終わり、一時移転していた仮校舎から戻ってきました。大きな変化ではありませんが、また気持ち新たに4月を迎えることとなります。

ところで、コロナも気が付けば2年以上がたち、今やオンラインでの会議・授業はすっかり当たり前のもと化しました。Zoomを使わない日は無いと言っても良いほどです。まだまだこの先どうなるか分かりませんが、大学生にとっての1年間はとても貴重な時間、皆さんにとって良い1年となることを願っています。

（吉岡）

本年度も依然としてコロナ脅威による悲しいニュースが日々続いています。その一方で、コロナ禍以降、私自身は日々の読書時間（特に夜間）が増えており、読書を通していろいろと考える時間が増えたように感じます。皆様もこんな時だからこそ、お気に入りの1冊を見つけて、読書を通しいろいろと考える習慣を身に付けてみてはいかがでしょうか。

（兵頭）